

新型コロナウイルス感染症対応  
避難所運営訓練結果報告書

令和2年5月

益城町



## 目次

I	新型コロナウイルス感染症対策の経緯	1
1.	新型コロナウイルス感染症対策本部の設置	1
2.	新型コロナウイルス感染症対応計画策定	1
3.	感染症対応訓練の実施	1
II	感染症対応避難所運営訓練概要	2
1.	目的	2
2.	日時	2
3.	場所	2
4.	被害想定	2
5.	訓練参加者	2
6.	来賓等（敬称略）	2
7.	次第	3
III	感染症対応避難所運営訓練結果	5
1.	訓練手法	5
2.	参加者アンケート結果	9
3.	訓練評価	13
4.	見学者からの意見（抜粋）	16
5.	災害対策本部長講評	19
IV	訓練総括と今後の課題	20
1.	避難所感染症対策における課題と改善の方向性について	20
2.	本訓練の成果	20
3.	今後の課題と目標	22
4.	避難所開設の例	23
5.	多様な避難	26

V	各種資料	28
1.	資料編	28
2.	様式集	40
VI	当日写真	46
VII	記録	53

※本稿は、令和2年5月31日時点での現況により作成しています。

# I 新型コロナウイルス感染症対策の経緯

## 1. 新型コロナウイルス感染症対策本部の設置

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、令和2年2月2日に町立津森小学校で実施した「益城町総合防災訓練」後に、第1回益城町新型コロナウイルス感染症対策調整会議を開催し、平成27年11月策定の「益城町新型インフルエンザ等対策行動計画」の一部改訂を含め、今後の感染症対策についての協議を実施した。

それ以降、窓口職員へのサージカルマスクの配布、手指消毒液の設置、デスクパーティションの設置、分散勤務の実施など様々な対応を図ってきた。

## 2. 新型コロナウイルス感染症対応計画策定

### (1) 「新型コロナウイルス感染症対応事業継続計画・感染対応マニュアル」の策定

令和2年4月に、感染症が庁内で発生したとの想定で、従前の事業継続計画に新たに加筆する形で「感染症対応事業継続計画・感染対応マニュアル」を策定し、感染発生時における事業継続のために閉鎖するエリア、一部他庁舎へ移設し継続する業務、関係者の聞き取り、住民広報及び庁内の消毒に関する手順等について定めた。

### (2) 「新型コロナウイルス感染症災害対策本部・避難所運営マニュアル」の策定

令和2年5月に、災害時に密となる確率が高い災害対策本部運営上の課題と改善方法などを定めるとともに、災害時における住民避難について、感染防止策を加えた避難所運営マニュアルの素案を策定した。

## 3. 感染症対応訓練の実施

### (1) 感染症対応指定避難所開設訓練

令和2年4月23日に、策定マニュアルに基づく訓練を町立広安小学校において実施した。この訓練において、従来の避難所のエリアスペースの考え方では、避難者、運営者の感染防護が困難との結論に至ったことから、今回改めて訓練するに至ったところである。

ア 日 時 令和2年4月23日（木）14時～15時30分

イ 場 所 益城町立広安小学校体育館

ウ 内 容 ①避難所受付、②避難所における居住空間の確認、③感染防護策 等

### (2) 益城町役場仮設庁舎内における感染発生時対応訓練

職員罹患による庁舎の一部閉鎖に伴う業務場所の移設と消毒方法などの検証を行った。

ア 日 時 令和2年4月23日（木）18時～19時30分

イ 場 所 益城町役場仮設庁舎1階住民保険課前

ウ 内 容 ①感染後の消毒方法、②事業継続のための手法、③来庁者への広報 等

## Ⅱ 感染症対応避難所運営訓練概要

### 1. 目的

新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、新たに策定した「益城町新型コロナウイルス感染症避難所運営マニュアル」に基づき、風水害及び地震の災害発生時における感染防護策を講じた避難所運営について、職員対応の統一を図るとともに、PPE(個人防護具)着脱方法の確認を行い、もって住民の安全・安心に寄与することを目的とする。

### 2. 日時

令和2年5月24日(日) 9時30分～12時00分

### 3. 場所

益城町総合体育館メインアリーナ(益城町木山 236)

### 4. 被害想定

新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、令和2年5月24日(日)10時00分、熊本地方気象台より梅雨前線接近による大雨警報が発表され、町においては、災害対策本部を設置するとともに、住民に対し「警戒レベル4 避難」を発令し速やかな住民避難を促した。また、災害対策本部長指示により避難所開設のための準備を行っている。なお、訓練の運営上、受付の設置箇所や車中避難場所について、その位置等を変更し実施するものとする。

### 5. 訓練参加者

(1) 町特別職 町長、副町長、教育長

(2) 町職員 危機管理課、健康づくり推進課、福祉課、生涯学習課、各課 計50名

\* 今回の訓練は、屋内での密集を避ける目的から参加職員を50名と限定し実施した。

### 6. 来賓等(敬称略)

#### (1) 来賓者

益城町議会議長 稲田 忠 則

熊本県保健福祉部健康危機管理課長 上野 一 宏

#### (2) 訓練評価者

熊本県菊池保健所長 木脇 弘 二

熊本大学工学部准教授 竹内 裕希子

熊本赤十字病院災害看護認定看護師 小林 賢 吾

益城町危機管理監 今石 佳 太

### (3) 見学者

益城町職員、益城町議会議員、熊本県職員、八代市職員、大野城市職員、熊本災害ボランティア団体ネットワークKVOAD代表 樋口務、気象予報士 早田蛍、熊本YMCA

### (4) 報道機関

- ア. 放送局 RKK熊本放送、KKT熊本県民テレビ、KAB熊本朝日放送、TKUテレビ熊本
- イ. 新聞社 熊本日日新聞社、読売新聞社、朝日新聞社、西日本新聞社

## 7. 次 第

### (1) 本部長訓示 益城町長 西村 博則

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、本町においても、対策本部を2月に設置し対応に当たっているところであり、小中学校の休校や図書館等公共施設の閉鎖などを行いました。現在においても、町職員の分散勤務などを実施しております。また、地方創生臨時交付金を活用した町独自の施策を計画しているところであり、今後もスピード感をもって取り組んでまいります。

さて、梅雨入りを間近に控え、新たに策定する「益城町新型コロナウイルス感染症避難所運営マニュアル」に基づき、風水害発生時における感染防護策を講じた避難所運営について、職員対応の統一を図るとともに、住民の安心・安全に寄与することを目的とし、今回の訓練を実施します。

避難所運営では、4年前の熊本地震において、足の踏み場もないような過密問題、ベッドがない雑魚寝状態、共用スペースも確保できなかったことなどが課題となりました。この訓練では、避難所環境の改善、整備に併せ、新しい避難所のあり方、感染防護策を最大限取り入れた避難所設営や運営を行います。また、避難される際、発熱者を迅速に判別する体表面温度測定器の導入やソーシャルディスタンスの確保など、今までに経験のない避難所運営について訓練します。

熊本は、年間降水量の約4割が梅雨期の約1か月に集中して降り、本町においても毎年のように災害が発生しています。速やかな対策本部の設置と併せ、迅速な避難所開設が求められます。職員の皆さんは、避難所を開設・運営する際に、手間取ることが無いよう真剣に訓練に取り組んでいただきたいと思います。

結びになりますが、この訓練に際しご協力をいただきました皆様に感謝を申し上げ、本部長訓示とします。



### (2) 来賓紹介

### (3) 訓練評価者紹介

### (4) 訓練手法説明

### (5) PPE(個人防護具)訓練

### (6) 避難所運営訓練

\* 訓練は、細部について検証を行うため、各訓練終了時に訓練毎に、検証作業を実施。

#### ア. 受付訓練

- イ. 居住区訓練
- ウ. 生活空間訓練
- エ. 体調不良者対応訓練(別室への案内・医療機関への連絡)
- オ. 車中避難者対応訓練

(7) 訓練評価者講評

(8) 本部長講評



### Ⅲ 感染症対応避難所運営訓練結果

#### 1. 訓練手法

##### (1) PPE(個人防護具)訓練

感染疑い者との接触機会や非清潔箇所での作業実施時においては、感染を防護する装備を正しく使用することが、職員自らの感染防止のために効果的な対策となる。感染予防の専門家の指導の下、感染防護具の正しい装着及び脱着方法を身に付け、職員の安全管理及び感染拡大の防止につなげることを目的とする。

##### ア. 訓練の流れ

職員によるマスク、フェイスシールド、ガウン等の装着及び脱着の実演

(指導者:熊本赤十字病院 災害看護認定看護師 小林 賢吾 氏)

##### イ. ポイント

- (ア) 感染の有無にかかわらず、全ての分泌物や排泄物を感染の可能性があるものとして考える。
- (イ) 標準的な予防策(PPEの前段階として、手指消毒やマスク着用などの基本的な対策がまず重要)
- (ウ) 避難所においては、発熱者の対応等、密になる場面での活用が考えられる。
- (エ) 着用前の手指消毒はしっかり擦り込ませる。
- (オ) 手袋の着用は袖がしっかり隠れるようにする。
- (カ) 脱着時は手袋から、表側が汚染されていると考えるので、裏返す形で外す。
- (キ) フェイスシールドは前面が汚染されていると考え、後面の縁を触るようにして外す。
- (ク) ガウンは特に注意し、できる限り裏側の汚染されてない部分だけに触れるようにして脱着する。
- (ケ) 各装備を外した後は、その都度必ず手指消毒する。



##### (2) 受付訓練

災害発生時には、複数の避難者が同時に避難所を訪れることが想定されるが、避難所への入場時に感染疑い者を判別し区分しなければ、避難所内での感染蔓延(クラスター化)を招く恐れがある。そのような事態を未然に防止するため、健康チェックや消毒等の感染対策を取り入れながら、避難者の入場から避難スペースへ案内するまでの正しい流れについて確認を行うことを目的とする。

##### ア. 訓練の流れ

- (ア) 避難所入口(正面玄関風除室)での検温実施
- (イ) 問診による健康状態のチェック
- (ウ) 避難者名簿の記入
- (エ) 居住区への案内

##### イ. ポイント

- (ア) 体表面温度測定器による検温で異常ありの場合、非接触型体温計で再度の検温を行う。
- (イ) 体表面温度測定器は環境等により誤差を生じることから、使用場所やカメラの向きに注意を払う。



- (ウ) うまく測定できないとき、非接触型体温計で素早く再検温することで避難者に不安を与えない。
- (エ) 検温、問診、受付等の順番待ちをする箇所は、ソーシャルディスタンスを保つようマーカーを設置する。
- (オ) 受付が複数あるので、それぞれに案内役を配置し、列の滞留緩和を図る。
- (カ) 問診前など滞留が予想される箇所は、各避難者の向く方向を変えるよう見やすくマーカー設置する。
- (キ) 規定体温超の避難者は動線を分け、離れた場所で健康観察する。
- (ク) 避難者の滞留を防ぐため、受付の避難者名簿は簡素化する。
- (ケ) 筆記具は使い回しをせず、各避難者で別のものを使用する。(クリップペンシル等の活用)
- (コ) 世帯構成に応じた居住区の指定と居住区 No.を管理する。

### (3) 居住区訓練

避難所内での生活においては、パーティションで囲まれることによる温度の上昇や、くしゃみ等による飛沫の付着等、体調不良や感染症を引き起こす要因となる様々な事象が発生することが考えられる。このような場面を想定し、移動のための動線管理や、パーティションに張った飛沫感染防止シートの効果、換気の方法、発生したゴミの分別方法などについて、実践を通して必要な知識を身に付けることを目的とする。

#### ア. 訓練の流れ

- (ア) 避難所内の暑さ対策について避難者からの意見聴取
- (イ) 発生したゴミの処分方法の確認
- (ウ) くしゃみ等による飛沫の付着について避難者から指摘の際の運営者側の対処方法

#### イ. ポイント

- (ア) 熱中症対策として冷却シートを配布する。
- (イ) 冷却シートの配布は自由に取り取るのではなく、必要数を直接配布する。
- (ウ) 1 時間に 1 回、パーティションの入口を開け放して換気を行う。
- (エ) 部屋に設置のゴミ箱は溢れていないか確認し、溢れていればしっかり封をして廃棄するよう促す。
- (オ) 各世帯での定期的な消毒を促すよう、パーティションごとに消毒液を設置する。
- (カ) パーティションが飛沫感染防止シートでしっかり覆われていることを確認する。
- (キ) 飛沫がシートに付着した場合は拭き取りを行う。
- (ク) 拭き取りの際は、手袋、フェイスシールド等を着用し次亜塩素酸を使って行う。
- (ケ) 拭き取りは往復しないよう、一方方向へ拭き上げを行う。



### (4) 生活空間訓練

避難生活で日常的に行われる食事及び物資の受け渡し、トイレ、授乳等については、反復的に行われる生活行動であることから、感染拡大につながる接触等の行為を可能な限り避けるとともに、都度の消毒を徹底して行うことが特に重要となる。これらの日常活動を想定した訓練を行うことで、清潔、非清潔の考え方を踏まえた適切な行動を整理することを目的とする。

#### ア. 訓練の流れ

- (ア) 避難者への食事・物資の配給

(イ) 要配慮者のトイレの使用

(ウ) 授乳室の使用

#### イ. ポイント

(ア) 食事はブロックごとに呼び出しを行い配給することにより、配給場所での混雑を回避する。

(イ) 要配慮者ゾーンの避難者から、順番に配布する。

(ウ) 受け取りの際には手指消毒を必ず行う。

(エ) 手指消毒を実施すれば手袋については不要との意見がある一方、着装のほうが発災者に安心感を与えるのではないかと意見もあり。

(オ) 避難者が自分の手で食事を袋に入れる形で配布する。

(カ) 食中毒のリスク軽減のため、協定締結した事業者の冷凍弁当を利用するなど食物の温度管理等を行う。

(キ) トイレ及び授乳室への移動は、別の避難者との擦れ違いが起こらないよう、動線で案内する。

(ク) トイレ入口に消毒液を配置するとともに、案内は目につく高い位置に貼る等の配慮を行う。



#### (5) 体調不良者対応訓練(別室への案内・医療機関への連絡)

避難所における体調不良の原因は様々だが、特に発熱等の新型コロナウイルス様の症状については、避難者が敏感になっているところであり、不安を煽ることがないように留意することが必要となる。体調不良の申し出があった場合の別室への誘導、必要箇所の消毒及び状況の説明の仕方などを実践し、避難者に安心感を与えることのできる対応方法を身に付けることを目的とする。

##### ア. 訓練の流れ

(ア) 体調不良者の家族から申し出

(イ) 体調不良者とその家族を別スペースへ案内

(ウ) 保健師による問診

##### イ. ポイント

(ア) 体調不良者の問診を受付担当職員が実施する。

(イ) 感染リスク防止のための防護具(マスクやフェイスシールド)の着装基準を明確化する。

(ウ) 体調不良者が動けない場合、巡回相談をしている保健師に依頼する。

(エ) 基本的には別室(救護室)へ移動してからの問診、バイタルチェックを行う。

(オ) 家族移動後の居住スペース、動線の消毒を行う。

(カ) ただし、定期的に消毒ができていれば、必ずしも消毒は必要ではない。

(キ) 避難所での医療関係者もしくは保健師の常駐を理想とするが、不足時の対策を検討する。

(ク) 災害時の避難所開設数にもよるが、保健師2人1組で相談を行う。

(ケ) 誘導する際の配慮と他の避難者に対する説明内容の基準を作成する。

(コ) 消毒について基本計画を策定する。

(サ) 新型コロナウイルス陽性判明時における保健所指導の下の消毒対応をフロー化する。

(シ) 居住空間の掃除の一環として、定期的な消毒を避難者自身が実施する体制を構築する。



#### (6) 車中避難者対応訓練

平成28年熊本地震での課題となった車中泊については、避難所内での密集を避け、感染拡大防止を図るとの観点から、多様な避難方法の選択肢の一つとなり得るものと考えられる。車での避難所来訪時の停

車位置の問題から、避難者カードの書き方、長時間に渡る滞在による健康管理などを実施し、車中避難の在り方を検証することを目的とする。

ア. 訓練の流れ

- (ア) 車中避難者の自己申告による避難所内での受付
- (イ) 車中避難者の有無を巡回し確認

イ. ポイント

- (ア) 受付を終えた避難者には届出済証を交付し、ダッシュボードに置いてもらう。
- (イ) 避難所内の避難者と同様に、避難者カードの記入を依頼する。
- (ウ) 車内の滞在者に声掛け「避難者であるか」、「受付を済ませているか」の確認を行う。
- (エ) 車中避難者が停車する箇所に看板を設置する。
- (オ) 大雨、夜間を想定し、案内看板については蛍光塗料を塗布するなど更なる改善について検討を行う。

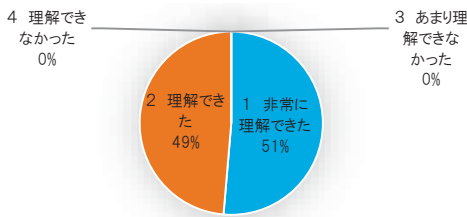




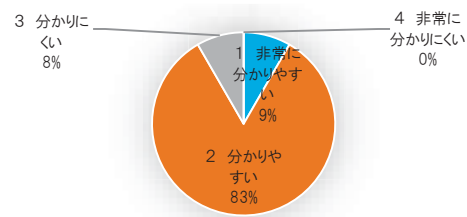
## 2. 参加者アンケート結果

### (1) PPE(個人防護具)の着脱訓練について

#### ①PPE(個人防護具)概要・使用目的について



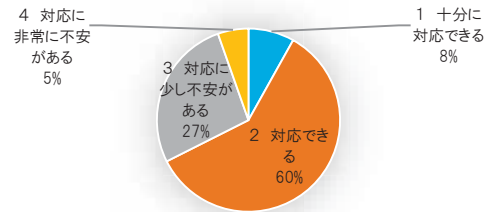
#### ②PPE 着脱方法の説明について



#### ③PPE 事案に対し、対応が出来るか

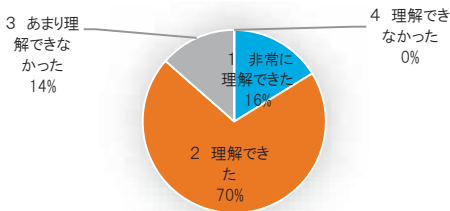
##### 【③についてどのような不安があるか】

- 使用目的は理解できたが、実務での着用するタイミングが分からなかった。
- PPEを脱ぐ際、極力皮膚に触れず脱ぐことや、手指消毒をその都度行うことを忘れるかもしれない。
- 梅雨や夏場の蒸し暑さの中、マスクとフェイスシールドを着用しての作業等はかなりきついと思う。
- 避難所のスタッフルームで脱着方法の映像を見られるよう整備してほしい。
- 標準防護策として、マスクの着用を標準装備として、基本的な手指衛生、マスク着用、身体的距離をとるといった予防策をとることが大事。また、感染拡大時、必要な PPE は、優先的に病院や施設に供給されることになるため、代用品(ガウン⇒レインコート、フェイスシールド⇒クリアファイル等の代用)を考えておくことが必要。
- どういう場合にどの PPE を着用するか判断が難しい。在庫の量や活動規模(避難所数・災害の規模)によっても異なると思うので、個人で判断して良いのか分からない。

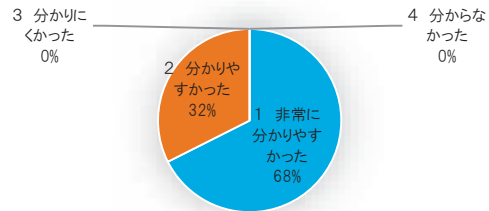


### (2) 避難所設営・受付訓練の内容について

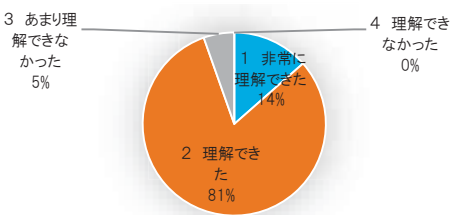
#### ①避難所設営・受付の概要、方法について



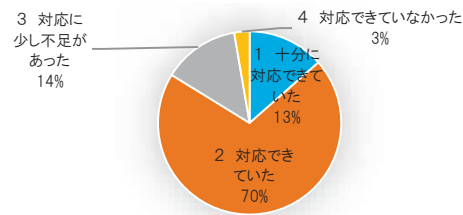
#### ②段階に応じた受付手順について



#### ③避難所生活環境改善の様々な工夫について



#### ④場面想定への受付に職員が対応できていたか



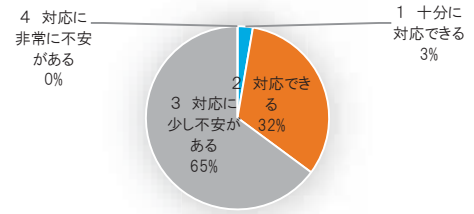
##### 【④についてどういった対応が不足していたか】

- 大雨想定では避難所にボランティアは要請しない限り来ないと考える。誘導を実施していたが、ほぼ職員が対応するのでは。
- 次々に来られる避難者に対する対応等、入口近くに誘導員を配置し、受付者の余裕を確保する必要がある。ある程度、受付対応をした職員が手の消毒等行うインターバルが必要と思う。
- 本日説明を聞き、家族で1セット配布(クリアファイルセット)したが、1人ずつ離れていたため家族まとめた対応ができなかった。
- 避難者カード提出時に、館内配置の説明が出来た方がいい。(ゴミ箱・トイレ・配食場所など)。ゴミの出し方などは、ゴミ箱に注意事項を張っておくといい。

⑤感染症対策視点の避難所設営・運営に対応できるか

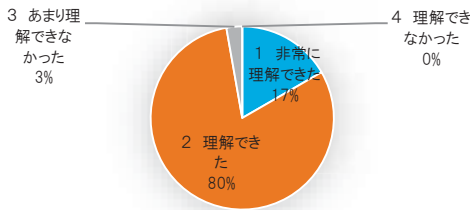
【⑤についてどのような不安があるか】

- 現時点の考え方における設営・運営ではマンパワー不足と予想する。
- 避難者数が多い時、感染症対策が十分に取れるか。
- 想定以上の避難者が来られた場合、受付での避難者名簿の記入時に、受付窓口で密ができることが明確。そういった部分の想定が必要だと思う。
- 警戒レベル4の段階で益城町では何世帯ぐらいの方が実際に避難が必要な危険な地域に居住しているのか。1箇所は何世帯が避難される想定である設備は整備するのか。
- 人員が限られている時や、経験の少ない職員のみの方に判断ができるか不安。特に想定外の質問や苦情等があがった場合。
- 今回は場所も広く職員も大勢で対応できたが、他の避難所を開設する時の対応なども早い時期に検討した方がよいと思う。
- 避難者数が多数の際の受付待ちの列をどうするか。大雨であれば外に並ばせるわけにはいかないし館内でも密の問題がある。
- 細部まで完璧に対応できるとは限らないので、実際設営・運営する場面で、臨機応変かつ迅速に対応できるか分からない。
- 今後、実際に警戒レベル4のときは、この避難所の体制になるのか。何箇所開設し、何人の職員が配置されるのか、通常業務も並行しながら避難所業務もでは、職員の体力がもたないのではと懸念する。
- 感染症対策や人員・経費など総合すると近隣の宿泊施設と協力するなどの方法をとることはできないのか。
- 実際に今回の訓練通りに動けるかが不安である、また設営にかかる時間やスペースの確保はどうするのか。
- 細かいことを決めてしまうとマニュアルどおりに行かない時に融通が利かない恐れが懸念される。
- 公民館では体調不良者用の部屋をあらかじめ分けておくのはスペース上難しいと思うので、一律同じ方法はとれない。

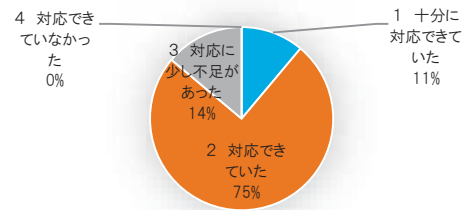


(3)物資配給訓練について

①感染症対策の物資配給訓練の方法について



②職員は物資配給について、対応できていたか



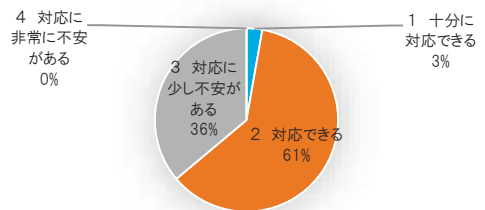
【②についてどういった対応が不足していたか】

- 配給スペースが狭く、避難者が詰めづらそう。職員が手袋をつけて世帯数のお弁当等を入れて渡した方がスムーズだと思う。
- デスクパーティション越しに渡せない大きなものをどう渡すのが課題
- 実際に運営する際は訓練みたいにスムーズにはいかないとし、混乱がおきると思うので案内等ができるか不安です。
- 物資配給はどの災害規模でも起こり得ることなのか。配給するということはそれなりの災害規模が予想されるが、物資の種類・量も多くなるため、配布だけでなく在庫管理や物資の保管方法の訓練も必要になると思う。避難者数に対して物資数が少ない場合の配布する・しないの優先順位をどうするかなどを考える訓練をしておく必要がある。

③感染症対策を視点においた物資配給に対応できるか

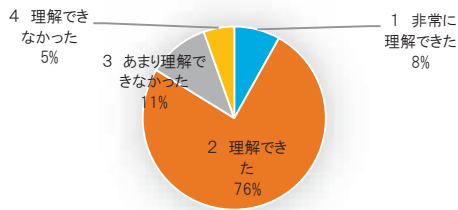
【③についてどんな不安があるか】

- どこに避難物資があるのかなど確認する訓練が必要だと思いました。
- ルールを守らずに取りに来る方が増えると予想され、受け渡しに時間がかかり混雑することから感染面でも不安。
- 数十人が一度に来場した場合、対応できるのか。
- 総合体育館には放送設備があるが、他の避難所での対応が不安。
- 高齢者等で放送が聞こえなかった場合の対応はどうするのか。
- 対面飛沫対策は十分だが、物品の表面に付着している恐れがあるウイルス除去をどの程度行う必要があるのか。
- 避難者が物資を受け取った後、手指消毒していないのが気になった。
- 配達方式になると荷物の受取りの問題や、荷詰の際に複数の人物を介するため接触のリスクが増えると考えられる。

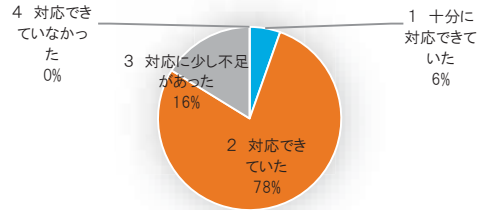


#### (4) 体調不良者に対する訓練内容について

##### ① 体調不良者に対する訓練の方法について



##### ② 体調不良者への職員の対応について



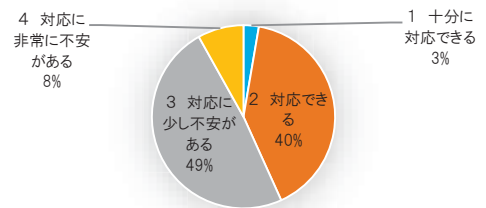
##### 【②についてどういった対応が不足していたか】

- 仮にコロナ感染というケースであれば避難者に対して周知する等の対応が必要となるため、受入側での人権の配慮は難しい。
- PPE非着用の職員が対応するべきか、再考が必要と感じた。
- 熱発者に対して職員のアプローチ(救護室までの、対応者と熱発者の距離間、装備、家族への説明)が難しい。
- 自身が体調が悪いことの言いにくさを考えると、定期的に各区画を巡回し問診を行う方が良いと感じた。
- 体調不良者を自分で移動させるのは、吐き気やめまい等起こった場合に危険。嘔吐した場合の感染の危険性も高まるのでは。
- 体調不良者の発生もケースバイケースなので、必ずしもガウンといった PPE があるわけではなく、基本的な感染予防策を徹底する必要がある。また、体調不良が言い出しにくい環境をさけるため、避難者に毎日検温と体調チェックをお願いし変化があった人は管理者に申し出ることができるようにする。消毒についても、基本的に、飛沫防止のためにパーティションを設置している設定であるので、当該体調不良者の居室内スペースを最初から消毒ありきではなく、やはり避難者が日頃から清掃の一環として、自身の居室スペースの消毒液を用いた清掃を定期的に行うのが効果的と考える。

##### ③ 感染症対策を視点において、体調不良者に十分な対応ができるか

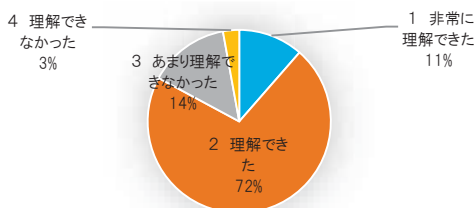
##### 【③についてどんな不安があるか】

- 人権等に配慮したうえでの対応。
- 全員が対応内容や医療機関へのつなぎ方を理解しておく必要がある。
- 発熱者等を隔離するスペースが避難所次第では、困難ではないか。
- すべての役割を経験しないと、見学だけでは不安が残ります。
- 実際の避難所には、医療関係者も保健師もいない状態だと思います。
- 担当の避難所に保健師さんがいない時の対応が不安。
- 体調不良者が接触した箇所の消毒等対応方法を検討する必要がある。
- 体調次第でどのような判断をするのかなどの線引きを明確にし対応できるかどうか(自ら対応しなくてはならなくなったときに不安)。
- 他の住民の方も神経質になっていると思うので、体調不良者とその家族に対する風評被害がないように行動できるか不安がある。
- 避難所用携帯電話が常備してあり、医療機関や消防署とやり取りできるようなシステムだと安心できます。
- 受付職員が全ての対応をしなければいけなかったのが負担が多いような気がする。今回は訓練だったので、各コーナー配置されていましたが実際は2~3名ですべての役割をすることになるのではないかと。
- 体調不良者対応を避難所の運営スタッフである程度対応できる体制を考えるべき。(現実に即した内容で)

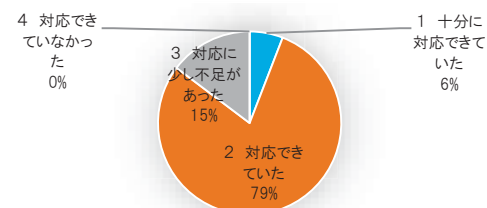


#### (5) 車中避難者に対する訓練内容について

##### ① 車中避難者に対する訓練の方法について



##### ② 車中避難者に対する取り組みについて



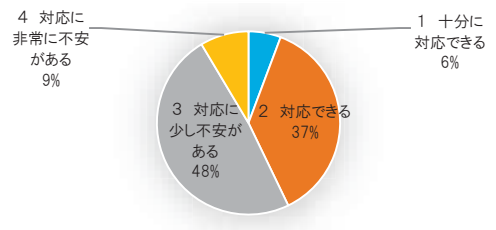
##### 【②についてどういった対応が不足していたか】

- 大雨のときも車中泊を認めるのか疑問。大雨警報が出ている中で車中避難している方へも配慮するのは不可能だと思う。
- 車中泊の方の食事配布や体調不良対応はどうすればいいのか。
- 避難所に来てからの対応では、拒否者など把握が難しい。平常時からの呼びかけ・車中避難の心得を知ってもらう必要がある。

### ③感染症対策を視点においた車中避難者への対応について

#### 【③についてどんな不安があるか】

- 総合体育館のような浸水の可能性がある避難所の対応方法について
- 車中泊の方の対応の際の、感染症予防や、ペットを連れていたり、雨等の外の環境が悪い場合や暑い・寒い日の対応が不安。
- 物資配給時に、一度に取りに来ないようにするための区切りをどうするか
- 車中避難者と屋内避難者との接触を完全に遮断できるのか
- トイレ使用については、車中泊者専用トイレの案内チラシを配布したが、物資配給についても検討する必要がある。
- 車中泊数は熊本地震時の避難所運営でも把握が難しく様々な想定が必要かもしれないと感じた。
- 避難者が車中でマスクをしているか不明なので、フェイスシールド・手袋の着用が必要ではないかと思いました。
- 避難所避難者との生活空間の住み分けや動線の区分けがまだ分からなかった。



#### 【その他、訓練内容等に関する自由記述内容】

- 実況中継は非常に良かった。参加していない方にもわかりやすかった。
- 入口及び出口の入出の徹底をさせることが必要である。
- 職員に対しての熱中症対策、飲み物の配布や休憩などの配慮が必要
- 訓練に関するマニュアルの事前配布が必要だと思う。
- 避難物資や段ボールベッド等の保管場所の確認も訓練に入れるべきだと思います。
- 女性の対応やご案内は、女性が行った方が安心して授乳等ができると思った。
- 各受付(受付・炊き出し・物資等)で何が必要か等の準備物のチェック表が必要と感じた。
- 人との接触を避けたいという理由で避難者カード等の記入を拒まれた時の対応
- 大雨で夜間に避難される場合は、より看板の存在が認識できなくなると思う。
- 大きな前提条件(大雨による警戒レベル4の体制、コロナウイルス感染拡大期)は設定されていましたが、細かい条件、(避難所の保健師の配置数や、空調設備の状態など)が訓練者に共有されていればもっとリアリティーのある判断や対応を行える環境となり、さらに有意義な訓練になるものと感じました。ただし今回、時間が短い中での開催でやむを得なかったとは思いますが。
- 今回訓練に参加できなかった職員(ほとんどの職員が避難所対応を行うこととなる)への指導も必要と思われる。
- 梅雨時期の豪雨や台風時に小規模な避難所を数か所、短期間開設する場合、限られたスペースや少人数のスタッフで同様な対応を行うことは非常に困難ではないかと思われる。
- 今回の研修と今後策定されるマニュアルでの再確認により、避難所開設時の対応について確認が必要であると実感した。なお、訓練に参加しなかった職員へは、マニュアルによる指導となると思うが、参加した職員からの指導や助言が必要ではと考える。
- トイレは車いすごと利用するので、使用後は車いす自体も消毒するのか、或いは当人ではなく周辺の住民から何か言われぬか(車いすも消毒した方がいい等)気になるところ。
- 感染症に限らず、避難所運営においてはあらゆる事態が考えられるので、思いつくりの想定問答も必要ではないか。(熊本地震で避難所運営に携わった職員は、住民から様々な注文、苦情、提案を受け、マニュアル通りにいかないことも多かったのだ。)
- 体表面温度測定器も1人配置が必要なら、非接触型体温計の方が比較的だれでも使用できて早く対応できると思います。受付時以外の避難所生活の中でも避難者の体温が測れると思います。
- 個人のプライバシー、熱中症対策、感染症対策、人員配置、など解消するために、臨時の避難所に宿泊施設(ホテルや旅館)の活用は、益城町では無理なんでしょうか？
- 住民の方へ避難所に来ることが避難でないこと、平時から感染拡大時期に自身がどこに避難するべきかを考えておいてもらうことが大事なのでそちらに力をそそぐ必要があると思いました。
- 地元の医師会や、管轄保健所、住民組織の方との連携が必要と感じました。
- 「新型コロナウイルス避難所運営マニュアル」は、全職員がいつでも閲覧できるようにしてほしい。
- PPE(個人防護具)の着脱については、避難所で職員が脱着方法の映像を見られるように整備してほしい。



### 3. 訓練評価

#### (1) 訓練評価者による講評

##### ア. 熊本大学工学部准教授 竹内 裕希子 氏

今回の訓練は「事前に準備をして受付を作る」、「レイアウト・間取りを作って、避難者を管理していく」という流れであり、災害発生時に繰り返されてきた、避難者の把握ができない状況での避難所運営から前進できた内容であると言える。その上で、新型コロナの感染拡大防止という視点においては、感染の可能性がある方、高齢者、障がい者等支援を必要とする方の把握を行うことが、その後の食事の配布やケアに繋がることから、取りこぼしなく受付することが重要となる。また、混雑をさせない、動線を交わらせないという視点も大事なところだが、受付の一連の流れに目を向けると、デスクパーティションの設置、間隔を空けて待つという対策が取られていた。

ただ、実際の災害時に今回のようにスムーズに上手くいくかと考えてみると、例えば間隔を空けるという観点での視覚的な工夫は足形マーカールの設置のみだったが、パイロンやロープのような立体的な動線管理がされていない状況で、実際の避難者がルールを理解し並ぶことができるのか。さらに心配だったのは、避難所内の土足禁止エリアが明確にされていなかったことで、避難者が靴を履きかえた状態での流れを行われていたため、滞留が起こるであろう靴の履き替えの場面が検証されていない。そういった課題を出していくことが訓練において大事なことだと考える。



その他にも、車いす避難者のためにスペース等を配慮した居住エリアがあったか。車中泊避難者でもトイレ利用や物資受け取りという人の流れは考慮されていたか。そのあたりを含め、避難所のレイアウトについて更なる検討が望まれる。また、今回のように受付や物資配給場所等のテーブルが複数あると、大勢の人が並んだ時に、どこで何をしているか分からないということも課題となってくる。それぞれテーブルに表示の貼り紙をしているのだから、例えばそれを高い位置に貼り直すというだけで、避難者にとって明確な情報となる。そういうひと工夫を知恵出ししていくことが、混雑の解消につながっていくのではないかと考える。

##### イ. 熊本赤十字病院災害看護認定看護師 小林 賢吾 氏

感染予防という点で、手指消毒が一番大切であり基本となること。コロナ期の避難所においては物流が滞ることも想定されるため、消毒に係る物資等をいかに事前に備蓄しておくか。さらには、住民の自助に働きかけ、手指消毒剤を防災バッグに入れて避難に備えていただくよう周知していくことも課題になるのではと思う。

PPEの取扱いに関しては、医療従事者であっても難しいとされており、それについての色々なマニュアルがあるがそれも少しずつ手順が違っている。このため、益城町でもコロナ禍におけるPPEの着脱方法について、写真を撮り、一つ一つの工程を明示するなどして、誰しもができるようにしておくことが課題だと思う。その中で一番大切にしてほしいのは、訓練時にも何度もお話したように、表面が一番汚染されているので、表は触らないようにし、裏は安全、自分を守るところになるということを原則として理解してほしい。そ

の原則をしっかり守っていただければ、少し手順からずれていても感染リスクは上がらない。手指衛生や手洗いの徹底が運営職員や避難者に周知され、実践を経て浸透していく。これが実現できると、接触感染経路を断つことにつながる。



今回、体調不良者の家族役の方が言っていたとおり、避難者心理と職員心理が普段の避難所よりも増強すると思う。職員はPPEを着るといふ身体的な苦痛も感じ負担にもなるため、職員への心のケア等支援者支援をマニュアルに記載することも重要。避難者の人権に配慮しながら、いかに自分の身を守るかということも非常に重要。

先ほどの訓練で、受付の方が行くときの服装について、これで良かったかという課題があったと思う。どのような装備で行くか、こちらからの提言としては、フェイスシールドとマスクを着け保健師の方は巡回していただくことを案として出させていただいているので、これに準じて行うなど、マニュアルを改訂していただければと思う。

#### ウ. 熊本県菊池保健所長 木脇 弘二 氏

災害と感染症をセットにした訓練は難しいところがたくさんある。具体的な形で資材を使って実際に運営する訓練を企画したことは、自治体としては勇気のいる事だったと思う。災害では気が立ち、不安になる、しかもある感染症がまん延しているということになるとそれが増加するなかでの対応になるため、準備していないと出来ない。今日のような具体的な訓練はそのような点で優れていると思う。

保健医療について、小林先生からも話があったように、PPEの着脱については医師であっても難しい。コロナでも院内感染が話題になっていたが、標準予防策が足りないというわけではなく、うまくマネジメントできなかったというところに問題があるとわかっている。手袋やガウンを付けていれば安心というようにPPEを過信してしまう。付けて、実際に必要な対応をるところまでは気が張っているが、一番肝心なのはPPEを脱ぐとき。10年前、八代市で行われた新型インフルエンザの訓練においては、PPEを脱ぐ前に蛍光スプレー缶を使用し、それを病原体に見立てて、装着している人に噴きつけ、蛍光塗料が体につかないように脱ぐという優れたものだった。今日、小林先生が示されたのは一つの方法。手袋を2枚付けることもある。PPEの脱ぎ方のマニュアルは業界によって順番が違うため、混乱することもあると思うが、「外側は汚染されている、内側はきれい」というのが大原則で、それを理解していれば、安全な脱ぎ方はできる。どこで脱ぐか、非常に狭い空間で脱ぐと、表面についていたもので脱いだ人が感染してしまうリスクがあるということがわかってきている。この処置ではどこまでつければいいのかというPPE論争が必ずある。基本は、手袋でも表面が汚染されてしまえば意味がなくなるため、その場合は手袋を変えなければならない。手指消毒も1回汚染されたらその都度しなければならない。実際に手袋の数



が限られていることなどもセットにして考える必要がある。ただ、住民の皆さんに対する安心感も必要。手袋をつけている方が安心ということならば、手袋をつけ、手袋の外側を消毒しながら食事の配膳をするなどのやり方はあると感じた。どこまで消毒すればいいかというのも難しく、保健師さんもなかなか答えるのが難しかったと思う。

見ていて心配だったのが、人間の手、人を消毒する薬は主にアルコール系、環境整備をする薬は次亜塩素酸というように当然違うが、入っている容器に何も書いていない。実際の災害のときには、消毒用の容器があふれると思う。竹内先生から、色分けをするなど分かりやすい方法をとるといいのではとアドバイスをいただいたように、誰が見ても人用、環境用とわかりやすいようにする工夫を、忙しい時ほど、人や物があふれる時ほどする必要はある。全体大きな目的を理解したうえで、一つ一つの細部を見落とさないようにやっていく、その組み合わせの難しさがあるが、お願いしたい。

熊本地震の後にも西日本豪雨や佐賀の水害などさまざまな避難所対応をしたが、熊本地震で学んだ事が活かされてきているし、今回のような新しい考え方で感染症と今回は町職員を中心に訓練が行われたが、災害の規模により発災と同じタイミングでいろんな支援者が入ってくる。特に医療の人のスピードは早い。医療関係者と自治体がそれぞれタイムラインを作成している。保健所としては、タイムラインをお互いに理解し支援側、受援側、益城町役場は支援側と受援側両方になりえるが、そのあたりのコミュニケーションや連携をうまくしていくには、日頃から御船保健所などの保健分野、地元の医師会の先生の連携も、特に感染症対応については準備のひとつとして取り組んでいただければ、もっと素晴らしいものになると思う。今回の訓練をスタート地点として、熊本県の、日本の見本となるような感染症に対応できる避難所運営を発展させていただければと思う。

## エ. 町危機管理監 今石 佳太

今回の訓練を企画した意図について改めて説明したい。

町職員は4年前に熊本地震で大きな経験をした中で、今回感染症が発生したということで、町の方ではいち早く日常業務を維持するため、先に約45頁の「業務継続計画」と「感染症マニュアル」を策定した。日常業務を確実に遂行できるようにしたうえで、次に考えたのが災害対応。現在、「避難所運営マニュアル、災害対策本部運営マニュアル」を併せた計画を未定稿として策定している。通常の避難所運営も難しい中で、感染症対策を併せ持って、どのように対応するかが一番の課題。

もともと、今年度、町の方では危機管理の目標として、避難所改革をうたっていた。地震発生後48時間以内にトイレ(T)、キッチン(K)、ベッド(B)、を整備することを予定していたが、2月、3月あたりから感染



症が流行したため、急遽このような訓練を前倒して計画した。企画側としても約2週間でここまで来たため、今まで評価者の先生方にご指摘いただいたようにまだまだ改善すべき点がある。今日がスタート地点と思っているし、今日いただいた意見を活かして今後の災害対応をしたい。

一方、町の指定避難所だけではなく、多様な避難



の形態として、車での避難、在宅避難が課題となっている。避難所運営だけでなく、在宅あるいはその他の避難をトータルで考え、出水期を乗り切りたい。課題は多いが、やればできると思っているので、皆さんの協力を得ながら、今後の防災力のアップということにつなげていきたい。

#### 4. 見学者からの意見（抜粋）

##### (1) 気象予報士 防災士 早田 蛍 氏

今回避難所運営訓練を見学させていただき、熊本地震の経験が最大限生かされたとても素晴らしい避難所運営訓練だったと感じました。

ただ、それはあくまで地震時の対応であり、今回の訓練で想定された梅雨前線による大雨災害の場合は、外は大雨が降っており、短時間で一気に気象状況が悪化する可能性が高いことを考えなければなりません。それを踏まえて、気象の観点から気になったことをいくつか挙げさせていただきます。

まずこの避難所になる体育館の位置です。益城町のハザードマップを見てみると、大雨時にすぐ近くの木山川が氾濫した場合の浸水域に入っており、この周辺地域の浸水深は 2.0～5.0m 未満と想定されています。このような状況で体育館が避難所として有効なのか。万が一体育館が浸水した時のことを考慮し、体育館の 2 階が避難所として使えるか、別の避難所の検討も必要でしょう。また、駐車場での車中泊も想定されていますが、浸水想定域での車中泊は大変危険です。この場で雨が降ってなくても、近くを流れる川の上流で大雨が降った場合、下流の中小河川は一気に水位が上昇することがあるため、この場所での車中泊は私は推奨しません。

次に、避難所の入り口では感染症対策として検温を行っています。その間後ろで待っている人は一定の感覚を保って並びますが、一気に多くの避難者が来た場合には建物の外まで並ぶこととなります。外はある程度屋根がありますが、避難者が押し寄せるとは非常に激しい雨が降っている場合や、雷、非常に強い風が吹いている場合があります。激しい気象条件の中、人が大勢来た場合の検温の待機をどうするかも検討した方が良いでしょう。

また入り口付近の床は、雨や濡れた人々が通ることで水浸しになるだろうから、感染症や衛生的な観点からタオルを用意して居住空間に入る際は拭いて入ってもらうなどした方が良いでしょう。

以上、気象の観点からみた避難訓練の気づきです。全体的にとっても素晴らしい訓練だったと感じました。近年の気象災害を見てみると、短時間で一気に状況が悪化するケースが多いです。よりスピード感を持った対応が求められるため、今回のような実践を想定した訓練は災害時に非常に有効だろうと感じました。

##### (2) 見学者アンケート結果

###### ア. PPE(個人防護具)の着脱訓練について

- PPE の着脱については、対応される方の命を守る最大の防護となるため、大変重要な訓練だったと思う。感染から身を守るために一点の気のゆるみもない装備が必要だということがよく伝わった。
- 脱着の具体が判った。
- 着脱訓練自体は非常によいが、誰がいつ着用するのかを決めておく必要がある。それにより着脱訓練を受ける人の範囲がわかる。

- 標準予防策の説明があったのがよかった。コロナ対応以外でも通常からの意識が大切であると思う。
- PPE が着装よりも脱着に重点が置かれることを改めて確認でき、手指消毒の大切さを改めて感じた。
- 初めて見せていただき、とてもためになった。「外側が汚染されているので、手指をふれないようにして。内側から外側を丸め込む」ということが基本と理解できた。

#### イ. 感染症対策を視点においた避難所設営・受付訓練の内容について

- 受付での記入は必要だが、高齢者によってはご自身の名前でもなんとか書ける方や眼鏡が必要な場合の対処と必要事項が増えるので、その場合はもっと時間を要すると思う。受付の際文字が書けない方をどうするのか検討が必要かと思う。
- 受付要領、誘導の必要性など参考になった。
- スペースの有効活用を図ってはどうか。ゾーンごとの配置間隔など数値で示すのも一つではと思う。
- 受付で必要な時間を減らし、カードを個々に記入してもらう方法はよい。内部資料としての一覧は後で作成すればよい。
- 性別欄は自由記載にするか男・女・他として欲しい。
- コロナ関連の多言語対応も準備が必要。少なくとも相談先を手配しておくなどの検討も必要と感じた。
- 熊本地震の時のように大人数になった場合は受入れを断るのかという根本的な問題がある。もちろん季節によることだろう。突発的な災害の場合、受付ではパニックになる可能性があり、ソーシャルディスタンスは守れないだろう。列が長くなり、寒さや雨があれば、さらに密になる可能性があり、事前に、住民に周知徹底しておく必要性を感じた。

#### ウ. 感染症対策を視点においた物資配給訓練について

- 物資配給については、今回は小さいものだったのでスムーズだったが、大きなものや個数が多い時の対処についてはどのようにされるのかと思った。食事配給については、手袋のことが言われていた通りと思う。
- 窓口型と配布型で考えていたので、参考になった。
- 物資・配食訓練は初の試みなのではないかと感じた。
- 食事配布を呼出の順に並んでもらうのはよいが、大人数に対応できるか。かえってデリバリーの方が感染対策を考える場合はよいかもしれない。
- 食事配布の際、手袋をしているが、手袋をしたままでいろいろ触って不潔より、目の前で消毒して、安心感を与えるなどした方がよいかもしれない。
- 物資配給訓練においては、配布する人達の手袋の必要性を感じた。
- 弁当を渡していたが、数量を聞いてから渡した方がいい。先にいっぱいある中で当事者が選ぶと感染がこわい。
- 自分で詰める、トレイで渡す、手袋着用、アルコール消毒など違和感を持つ避難者もいることから、住民の理解を事前に深めておく必要がある。

エ. 車中避難者・体調不良者に対する対応訓練について

- 体調不良者の状況にもよるが、第一段階での聞き取りにおいて車いすの準備も念頭に置いていた方が良いのではと思う。現在体育館に車イスの確保ができているのか。
- それぞれの問題点などを把握することができた。
- 車中避難前提で検討しておくのはとてもよい。受付証の発行をして、避難登録ができるようにしておくのは有効と思う。避難者一覧の一つに避難場所(屋内・車内など)があるとよい。車中泊用にあらかじめ十分なスペース確保が必要。屋内と車中泊の避難者が同等に扱われること大事。
- 体調不良者に対しては、慎重な人権配慮と心のケアが必要と思う。本当に難しい。

オ. その他、感染症対策を視点においた避難所運営についての評価・課題・改善点等について

- 本日は職員の皆さまが、それぞれの役割をしっかりと果たされ訓練がすすめられてご苦労様でした。受付のテーブルは、投票時の記入台くらい高くした方が負担が少なくなるので、これも受付時間短縮になるかもしれません。
- 全体を通して、避難所に関するあらゆる想定がされていて興味深く拝見させていただいた。ただ、気象状況があまり反映されていないと感じた。梅雨前線における大雨では、短時間で一気に状況が悪化するケースが多い。スピード感を持った対応が迫られると思う。
- 受付において、必要な間隔を保つ為の表示があれば良いと思った。
- 困難な訓練を今の段階で実施は素晴らしいと思う。スタッフ数の確保が大前提になると感じる。職員以外のスタッフ配置を考えるのであれば、マニュアルに役割分担等の明示が必要ではないか。
- 3密を作らない体制はできるが、実際の避難でできるのかは疑問。受付を作る大切さは感じた。
- 一般の食中毒等の対策であれば十分であると思うが、もう少し消毒液等を設置か所を増やし、避難者にも徹底させるべきと思う。アルコール消毒等をもっと意識すべきであると思う。

## 5. 災害対策本部長講評

訓練に参加した皆様、本当にお疲れ様でした。また、見学に来ていただいた皆様にも心より感謝申し上げます。今回の訓練については、前例も時間もなく、非常にタイトなスケジュールで準備をしなければならないということで実施を悩んだところもあったが、我々の一番の使命は住民の皆さんの命を守るということで、開催することを決断した。熊本地震を経験していない職員も増えてきている中、避難所運営の状況を作り出し、経験を積むという面でも、今回の訓練は重要なものだったと考えている。

熊本地震において、約 1,600 人の方々が旧総合体育館の廊下や周辺に避難している中で、安全が確保されていないアリーナ内に避難者を入れないと決断したこと。結果的にそれは正しい決断だったが、それができたのは多くの職員が正しい情報を与えてくれたおかげだと感じている。そういった判断力を職員全員が身に付けていくことが、町の安心・安全を守ることに繋がると考えている。訓練を行うことで、多くの課題が出てきた。失敗したこと、成功したことの検証を行い、この訓練の成果を基礎として、今後、あらゆる災害が起こった場合の対応に役立ててほしい。

訓練結果については、多くの自治体の避難所運営の参考としていただければ幸いに思う。脅威となっている新型コロナウイルス感染症との戦いは長期戦となるが、今後も町の安心・安全を守るため、職員一丸となって様々な取組を行い、苦境を乗り越えていきたい。



## IV 訓練総括と今後の課題

### 1. 避難所感染症対策における課題と改善の方向性について 危機管理課長 岩本 武継

今回実施した感染症対応運営訓練において、評価者、参加者双方から問題提起された点が、先ず、避難所設営段階におけるものとして、受付時における建物外部での滞留及び密集状態、受付及び居住空間から移動する際の動線確保、案内板の不足及び見えづらさ等が挙げられた。運営面においては、避難所設営要員及び運営要員の確保、町全職員による訓練の実施、手袋装着と手指消毒の運用方法の明示等が挙げられた。

また、参加者からの問題提起では、設営段階におけるものとして、狭小避難所のレイアウト及び掲示物掲示場所不足、また、一般ごみと汚染ごみの分別場所等が挙げられた。運営面としては、暑さ対策の脆弱さ、車いす等避難者携行品の消毒の必要性、車中避難者への支援の在り方等が挙げられた。また、全体的なものとして、想定問答集の作成・配布が重要であるとの意見があった。

これらの意見を受け、感染症対応型避難所の設営にあたっては、町内の指定避難所すべてにおいて、レイアウト図を作成し、その避難所に応じた避難者の滞留を招かない受付場所の決定、案内看板等掲示箇所及び動線を明確化する必要があると考える。

運営面においても、大雨及び台風接近時に開設する避難所を決定したうえで、人的資源の集中を図り、設営・運営・健康観察要員を確保する必要がある。また、感染症対応に係る避難所用資機材を精査し、物品表示および使用方法を明示する。さらに、運営要員の感染防護のための資機材装備が重要であるとともに、車中避難者を含めた健康観察を実施する要員を事前に決定しておく必要がある。

併せて、設営から運営までを網羅した想定問答集を作成し、感染症避難所運営マニュアルとともに町職員への周知徹底を図ったうえで、定期的に訓練を実施し町職員へ浸透させることで、感染症に対する避難所運営の習熟度を向上させ、町全体の取組として更なる防災力の向上を図る必要性を感じた。

以下に、その具体策を記する。

### 2. 本訓練の成果

#### (1) 感染を拡大させないための個人防護策

避難所運営のみならず、様々な業務の中で実施しなければならない可能性のあるPPEの着脱という動作について、専門家の指導により、注意すべきポイントを押さえつつ実践することができた。また、感染予防の観点におけるPPEの前段として、全ての基本となるのが手指消毒であり、その徹底が肝要であるということについて、訓練を通して医療専門家からの指導を仰ぐことにより、その重要性を職員が再認識することにも繋がった。

また、避難所において体調不良者が発生した際の対応として、問診等を受付職員が行うのか保健師が行うのか、処置をその場で行うのか別室に案内するのか、対応の際に防護具は必要なのか否か、そういった判断はその





避難者の状態やその時の状況などで最適な選択肢が変化するものであり、そのケースに応じた慎重な対応が必要であることが、想定しておくべき課題として再認識できた。

## (2) 段ボールベッド、パーティションによる居住エリア

避難所生活における人同士の距離を保つとともに、避難者に快適に居住してもらうという面で効果が示された。また、生活の中でパーティションの壁面に飛沫等が付着し、感染を招くということが懸念されるが、飛沫感染防止シートを被せるという工夫により、簡単に素早く消毒が可能であるということも実証できた。

居住エリアの区分は避難者の人数管理という面でも役立てることができ、居住区ごとに番号を付番し避難



者カードの情報と照らすことで、こういった特徴のある方が、避難所内のどのスペースに所在しているかが容易に分かり、入退去の状況も把握しやすくなるという点で、避難所運営の円滑化が見込まれた。さらに、要配慮者ゾーン、優先者ゾーンなどの明確化については、今後、実際の避難生活における避難者同士の共助意識の向上にも寄与できることが期待される。

## (3) 避難者の生活面における感染防止のための配慮

避難者の受付や食事・物資の配給など日常生活の様々な場面において、感染防止の観点における配慮として、ソーシャルディスタンスをふまえた待機位置のマーキングや、すれ違いの起こらないような動線の確保、デスクパーティションなどの対策を取り入れた上で実動し、うまく機能するか、問題点がないか検証することで、感染症流行時での避難所運営の一定の形を見出せた。

基本的な感染対策は当然に行えるようにしていく中で、自然災害に加えて感染症という脅威に対する不安を抱えた避難者に対し、いかに気を配り、安心感を与えることができるか。配給時の手袋の着用の有無など、訓練での細かな場面を切り出して、そういった繊細な部分まで検証し議論できたことは、今後の避難所運営の質向上への着実な一歩となる。



#### (4) 車中避難への対応

指定避難所周辺での車中泊避難について、車中泊避難者の把握と管理を行うやり方として、車中避難



専用スペースを提示し、受付での届出済証を配布するという方法を試し、避難者側、運営者側の双方から滞りなく運用できたという意見を得られた。

車中避難は、町が推し進める多様な避難形態のあり方の中にあつて、感染症流行時の避難所運営においては、避難所内での密集を回避する理由で、多数の避難者が車中避難を選択肢とすることも予想され、今後、大きな展開が予想される避難方法ではあるが、ベースとなる運営のあり方を今回の訓練で示すことができた。

### 3. 今後の課題と目標

#### (1) 個人防護策の周知と徹底

訓練の中で行ったPPEの着脱については、医療従事者であっても取扱いが難しく、また、マニュアルについても業界によって順序等に少しずつ違いがあるということだった。災害発生時には人員が不足している状況であることをふまえると、どの職員でもPPEを用いなければならない業務に直面する可能性がある。このため、評価者からの提言があつたように、PPEの取扱いや、その着用を要するケースの想定について、町として職員にわかりやすく提示する方法を見出す必要がある。

また、個人の感染防護策における全ての基本が手指消毒という認識や、人を消毒する場合は主にアルコール消毒液、環境整備をする場合は次亜塩素酸消毒液を用いるという使い分けについても、その徹底ができなければ、資材等が十分に揃っていたとしても、感染症対策としては不十分となってしまう可能性を孕んでおり、避難所運営に当たる職員の基礎知識として周知し、細やかな感染防護策を実践する必要がある。

感染症対応に連動して取り組んでいけるよう、平時からの保健・医療分野の各組織とのコミュニケーションも行っていく必要がある。

#### (2) 各避難所での居住エリア設置

今回の訓練は総合体育館を会場としており、広大なスペースや充実した資材・設備を用いることで、いわばフルスペックの環境での避難所運営を実践したものであると言える。このため、従来の避難所との大きな変更点である居住エリアの設置に関しては、今後、出水期を迎え、避難所開設の必要性が高まることが想定される中で、総合体育館よりも規模の小さい各避難所にどう落とし込んでいくかを検討していく必要がある。

具体的には、災害発生時または発生が予想される時、パーティションやベッドの設置を従来の避難所担当職員だけで行うことは困難であり、開設に必要な人員の新たな配置を行う必要がある。また、過去の避難所開設時の実績等のデータから、想定される避難者の人数や世帯構成などを研究し、パーティションとベッドの組み合わせや設置数なども検討し、より緻密な計画の下での運用を目指したい。

### (3) 各種表示の明確化と避難所レイアウトの検討

受付時のソーシャルディスタンスの確保や感染の蔓延を防止する対策について、今回の訓練の流れにおいては表出しなかった課題が評価者からいくつか挙げられた。

動線管理や受付等の各テーブルの表示の方法について、避難者視点でのわかりやすさが必要という指摘については、動線をより分かりやすくするテーブルパーティションなどの立体的な表示や、受付等の内容を高い場所に表示するなどの工夫を、今後の避難所運営に取り入れていく必要がある。土足禁止エリアの明確化も、実際の避難所運営においては必要になることであり、その際に人の滞留はどの程度起こるか想定し、対策を講じておきたい。

避難所レイアウトについては、今後の検討の余地が大きく残っている。更なる研究・検討を重ね、効率性が高く、かつ感染症のリスクを低減させるレイアウトを模索していきたい。

### (4) 車中避難のあり方の検討

今回は、避難所運営側が提示した車中避難スペースに車中避難者が停車するという条件での訓練だったが、実際の災害発生時には、訓練実施者から意見も出たように、悪天候等で車中避難スペースの表示が視認できなかったなどの理由で、避難所内の別のスペースに停車する避難者や、指定避難所以外の場所で車中避難を行う避難者が出てくる可能性もある。

安全を確認できた上での在宅避難や親類・知人宅等への避難など多様な避難の中で、車中避難についても、安全が確保できる避難場所の選定等、車中避難の課題と対応方針について、今後も検討していく必要がある。

## 4. 避難所開設の例

### (1) 開設の基準

益城町地域防災計画第3章第10節 避難収容計画 6 避難所の開設及び収容による。

### (2) 避難所の拡大について

感染予防の観点から避難者のスペースを拡大することにより、収容人員の大幅な減少が認められることから、町では避難所を新たに追加するなどの検討を積極的に推進するものとする。

ただし、これらの拡大により、一定数の職員を振り分けることによる他の災害対応分野への影響や、町職員で医療分野に携わる保健師の数等に限りがあることから、人的側面についても併せて検討を行うものとする。

### (3) 避難所開設担当課

避難所開設にあたっては、環境改善を図る観点から段ボールベッド、パーティション等の準備を行うものとし、避難所開設担当課は開設及び閉鎖について相互に協力を図るものとする。

なお、避難所開設担当課は、下記一覧表のとおりである。

## 避難所開設担当課一覧

	避難所運営 担当課	避難所設営 支援課①	避難所設営 支援課②	避難所設営 支援課③	計（人）
広安小学校体育館	4	2			6
津森小学校体育館	4		2		6
公民館飯野分館	4	2			6
公民館福田分館	4		2		6
総合体育館武道場	4			2	6
合 計	20	10			30

※避難所運営担当課以外は、避難所開設が完了次第、各部各班における業務にあたること。

また、避難所閉鎖時には、避難所運営担当課以外の課も協力して撤去を行うこと。

### (4) 避難所運営資機材の例

避難所開設に際しては、避難者の環境改善等の観点から、熊本地震の経験から危機管理課が定めた段ボールベッド等の避難所運営資機材を準備し、以下に記載の一部物資については避難所開設予定場所に事前準備するものとする。なお、地震災害等については、今後、別途協議を行うものとする。避難所感染防止資機材準備については、下記一覧表のとおりである。

#### 避難所感染防止資機材標準準備の例

大別	資機材名	必要個数	
		小学校体育館 総合体育館武道場	公民館分館
居住用品	段ボールベッド	10 個	5 個
	段ボールパーティション	10 個	5 個
	飛沫感染防止シート	1 巻	1 巻
	透明パーティション（※）	2 個	2 個
感染防護用品	サージカルマスク（※）	1 箱	1 箱
	フェイスシールド	5 枚	5 枚
	ゴーグル	10 個	5 個
	使い捨てガウン	3 枚	3 枚
	セパレート合羽	3 組	3 組
	使い捨て手袋	1 箱	1 箱
消毒用品	アルコール消毒液	12 個	6 個
	次亜塩素酸消毒液	6 本	3 本
	ペーパータオル	6 本（1 袋）	6 本（1 袋）
	非接触型体温計	1 台	1 台

	蓋付きゴミ箱	4 個	2 個
	ゴミ袋（大：60L）	8 枚（1 袋）	8 枚（1 袋）
	ゴミ袋（小：レジ袋）	20 枚（1 袋）	20 枚（1 袋）
事務用品	机（※）	2 脚	2 脚
	イス（※）	2 脚	2 脚
	使い捨て鉛筆	20 本	10 本
	避難者名簿	20 枚	10 枚
	避難者カード	20 枚	10 枚
	健康観察チラシ	20 枚	10 枚
	手洗い、消毒啓発チラシ	20 枚	10 枚

(5) 標準の防護策

一般避難区域	マスク	手袋	エプロン	ガウン	フェイスシールド	レインコート	帽子	備考
事前受付者	○				○			避難者と職員の間には遮蔽物があればマスクのみ
一般受付者	○							避難者と職員の間には遮蔽物があればより良い
一般誘導者	○							
物資（食料）配布者	○	○					△	炊き出しなどの配給時は帽子着用
トイレ清掃者	○	○	○		○			
車中泊誘導者	○				△			有症状者で車中泊希望であればフェイスシールド着用
その他避難所職員	○							

有症状者避難区域	マスク	手袋	エプロン	ガウン	フェイスシールド	レインコート	帽子	備考
有症状者対応	○	○		○	○			
有症状者誘導者	○				○			1m 以上の距離を保ち誘導する
物資（食料）配布者	○	○			○		△	炊き出しなどの配給時は帽子着用
トイレ清掃者	○	○	○		○			
その他避難所職員	○				○			

保健師	マスク	手袋	エプロン	ガウン	フェイスシールド	レインコート	帽子	備考
有症状者対応	○	○		○	○			



## 5. 多様な避難

避難の形態については、「難」を「避」けることであり、安全な場所にいるものが、避難場所に行く必要がないとの国の考えに基づき、平素から様々な媒体を通じて多様な避難のあり方についての住民周知を図っていくものとする。以下に多様な避難の一例を示す。

### (1) 在宅避難

自宅の安全が確保されている場所であれば、避難所等に避難することなく在宅の避難が考えられる。そのためには、平素からの備えが重要となってくる。

### (2) 親類・友人宅等への避難

近傍の安全な場所にある親類・友人宅等への避難について災害時の活用できるよう平素より周知を図っていくものとする。

### (3) 民間施設の活用

町では、多様な避難に対応するために、民間施設の活用も視野に入れ各種の施設と災害時の利活用について、協議を行うものとする。

### (4) 宿泊施設の活用

町では、多様な避難に対応するために、宿泊施設の活用も視野に入れ町内の施設と災害時の利活用について、協議を行うものとする。また、これらの利用に関しては、限りのあることから、その利用の優先順位についても検討を行い、平素から住民理解を求めていくものとする。

### (5) 国県施設の活用

国及び県等の所有する施設についても避難の対象とし、公共的目的を遂行するための障害にならない範囲での利用について、検討を重ねるものとする。

## 6. 感染症対策を含めた今後の避難所のあり方について 危機管理監 今石 佳太

今回、新型コロナウイルス感染症対応を踏まえた避難所運営のための訓練を実施したところではあるが、過去の災害においても避難所においては、インフルエンザやノロウイルスと言った感染症が発生していたことも事実である。当然のことながら新型の感染症であるため、その対策としてのワクチン等も現状ではなく、避難住民のかたの安全を担保するとともに施設運営を担う側の職員やボランティア等の安全も確保しなければならない。

外部評価者あるいは訓練参加者からいただいた様々な意見を参考として、町としては至急に課題の解決に向けて取り組んでいかなければならないと考えている。

近年の地震や風水害等の大規模災害においても、避難所等のあり方についての研究や改善が図られているとは必ずしも言い難い部分もある。これは、災害対応にあたる我々防災担当者の大きな課題であり、本町では新型コロナウイルス感染症以前の熊本地震以降からその解決のための手法を模索してきた。

在宅避難、親類・知人宅への避難、公共施設のみならず民間施設の積極的な借り上げや、公共的機関施設の借り上げ、車中避難等、いわゆる避難所外避難と呼ばれていたものについて今一度早急に検討を加え、避難場所の把握や物資及び情報提供のあり方などを含め、改めて避難というもの

について地域住民との合意形成や職員の意識改革も図っていく必要性に迫られている。

災害時において様々な地域特性がある中で、本町の新たな避難の形態について、今回の新型コロナウイルス感染症の避難所での感染防止を最重要課題としつつ、併せて新たな提言ができるように取り組んでいきたい。

## V 各種資料

### 1. 資料編

#### ア. 報道資料

#### 報道資料

令和2年（2020年）5月18日  
益城町危機管理課

#### 新型コロナウイルス感染症対応避難所運営訓練の実施について（御案内）

平素は、益城町政に格別の御高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、間もなく出水期を迎えるにあたり、町では喫緊の課題である感染症に対応した「新型コロナウイルス感染症対応避難所運営訓練」を実施します。

全国初となる感染防止のために開発したパーテーションによる居住空間確保、避難所運営者のPPE（感染防護策）、避難者の体温測定、避難所内の動線管理などを、今回新たに策定した「益城町感染症対策避難所運営マニュアル」等を基に、以下のとおり検証実施するものですので、御案内申し上げます。

#### 記

1 日 時 令和2年5月24日（日）9時30分～12時

2 会 場 益城町総合体育館メインアリーナ  
(益城町大字木山236番地)

3 内 容 ① PPE 訓練  
② 避難所設営及び受入訓練  
③ 物資配給訓練  
④ 体調不良者対応訓練  
⑤ 車中避難者対応訓練 等

4 参加者 町長、副町長、教育長、町職員  
熊本大学、熊本YMCA、KVORD  
約50名

\* 感染拡大防止の観点から、訓練参加者については、最小限としています。



益城町総合体育館 館内写真

5 その他 ①新型コロナウイルス感染状況や災害発生時には、中止する可能性がありますので、御了承ください。  
②体育館内は土足厳禁ですので、上履き等を準備ください。

6 取材について

取材希望の場合は、5月22日（金）12時までに御連絡をお願いします。

以上



#### イ. 避難所運営の目標

##### 益城町が避難所運営で目指すこと

益城町では、令和2年度の組織目標として「避難所の環境改革」を定め、昨年度から各種団体等との協定を締結するなど準備を進めていました。新型コロナウイルス感染症の拡大により、災害時の避難所運営が喫緊の課題となったことから、その一部を前倒しし、本日の訓練を実施するものです。

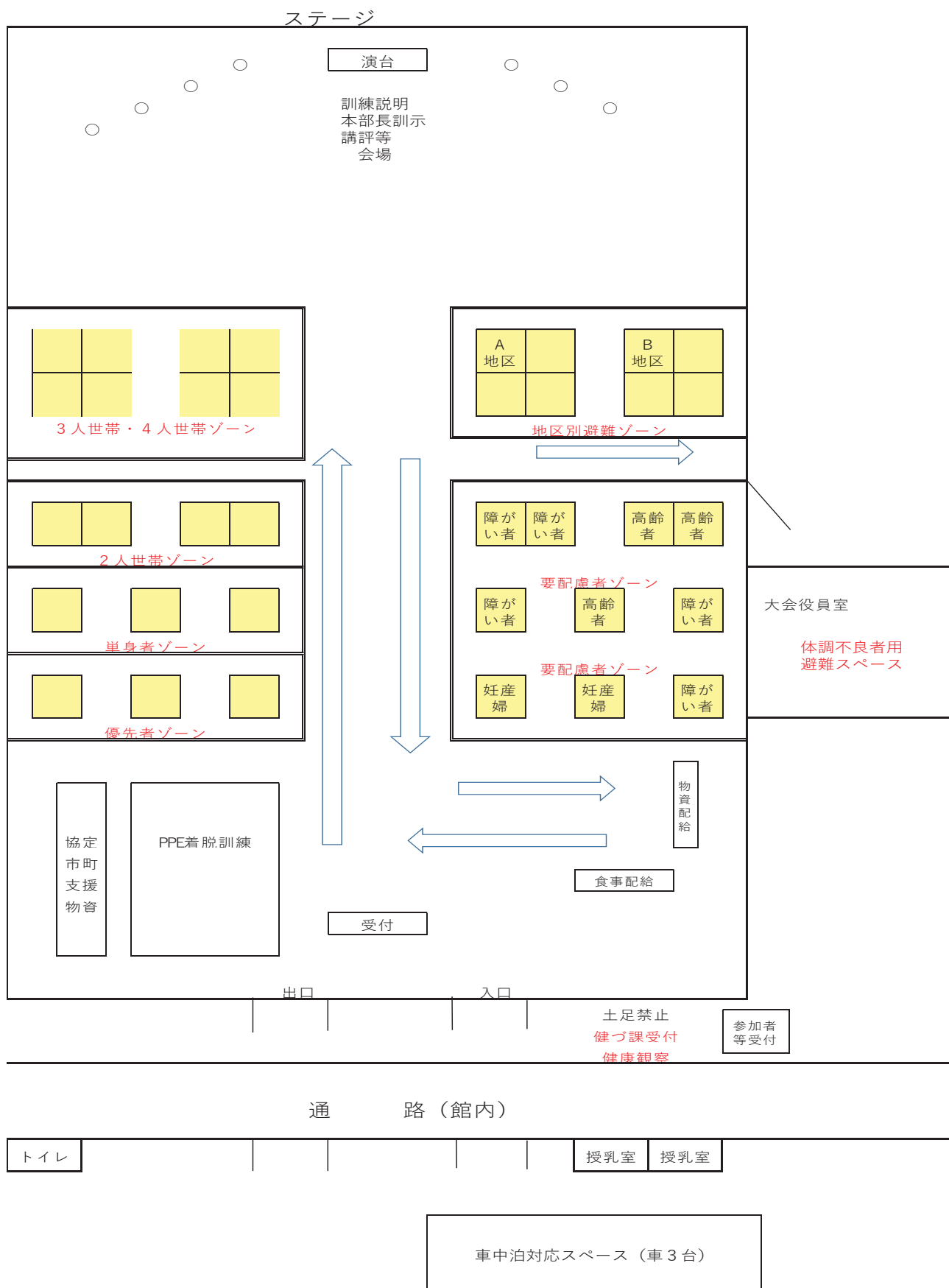
##### ■ 年度目標：「避難所環境改革 T K B 4 8」

T（トイレ） K（キッチン 食事の提供） B（ベッド 居住空間）を48時間以内に整備

##### □ 今回の目標

- 避難所内での感染拡大防止に努めます。
- 運営者（職員・防災士・自主防災組織・VO等）の防護策の徹底を図ります。
- 密を避け、避難所居住空間の分離確保（目標 4 m<sup>3</sup>）と換気を目指します。
- 避難者の特性に応じた居住空間のゾーニングを図ります。
- 清潔区域と汚染区域との動線分離を図ります。
- 在宅避難者や避難所外避難者への情報提供や物資提供に配慮を行います。
- 災害情報や感染情報などの的確で最新の情報提供に努めます。
- 熱中症対策と食中毒対策も併せて検討します。
- 多種多様な避難方法を普段から推奨します。
- 熊本地震の経験を生かします。

ウ. 会場レイアウト



\*パーティションによる最適なゾーニングを今回の訓練で検証するために、ブロック毎に各種（地区別、対象者別、避難人数別）の組み方を展示しています。

エ. チェック項目

益城町新型コロナウイルス感染症対応避難所運営訓練チェック項目

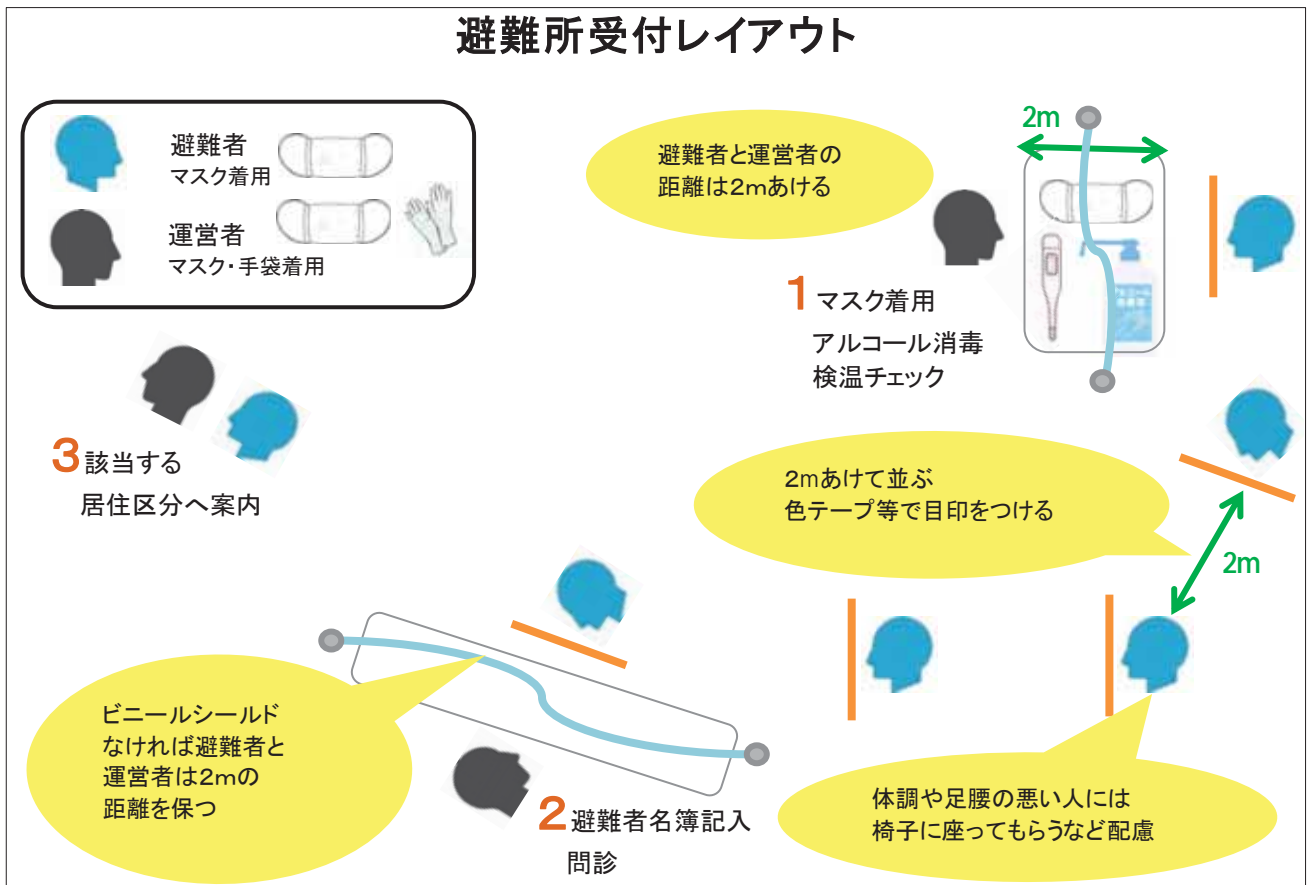
訓練番号	内容	確認事項
1. P P E	① P P E 解説	<input type="checkbox"/> 参加者（災害時は支援者等）が理解できるか
	② 解説資料	<input type="checkbox"/> 一読で理解できるか
	③ 装着	<input type="checkbox"/> 装着手順は正確か
	④ 脱着	<input type="checkbox"/> 脱着手順は正確か <input type="checkbox"/> 脱着ごとの消毒は行っているか
	⑤ エリア毎の P P E	<input type="checkbox"/> エリア毎の P P E の基準を明確にしたか <input type="checkbox"/> 施設運営者は理解できているか
2. 受付案内	① 入口付近の滞留	<input type="checkbox"/> 社会的距離を確保しているか <input type="checkbox"/> 目印、案内等の整備はなされているか <input type="checkbox"/> 保健師提唱の全員問診は密を誘発しないか
	② 検温	<input type="checkbox"/> 検温の方法は正確か <input type="checkbox"/> 簡易受付で一旦居住エリアに案内することは適正か <input type="checkbox"/> 発熱者に対する案内は適正か <input type="checkbox"/> 受付で停滞なく、別室等で対応できているか <input type="checkbox"/> プライバシーに配慮はなされているか <input type="checkbox"/> 実施者の防護策はなされているか
	③ 避難者カード	<input type="checkbox"/> 記入に時間を要していないか <input type="checkbox"/> 記入までに、記載方法の説明・掲示等があるか <input type="checkbox"/> 避難者カード短縮版の利便性はどうか <input type="checkbox"/> 改善した避難者カードは適正か <input type="checkbox"/> 特異分野（支援）を記入する欄は設けているか <input type="checkbox"/> 筆記具はクリップペンシル等を使用しているか <input type="checkbox"/> 避難者カードの H P からの事前入手は周知されているか <input type="checkbox"/> 避難所避難と避難所外避難（車中避難等）の受付は分離しているか <input type="checkbox"/> 受付担当者の人数は適正か
	④ 配布物	<input type="checkbox"/> 的確なプリントが配布されているか <input type="checkbox"/> 紛失しないための対策はなされているか <input type="checkbox"/> 事前にセットを行っているか <input type="checkbox"/> 避難所ルールは配布されているか <input type="checkbox"/> 配布物の拡大版は施設内各所に掲示されているか <input type="checkbox"/> 避難者の疑問に答えるものになっているか
	⑤ 居住エリアへの案内	<input type="checkbox"/> 居住区は、自由か指定か <input type="checkbox"/> 感染防止、使用方法の簡単な説明は行ったのか <input type="checkbox"/> 各部屋にルームNoは明記されているか
	⑥ 外履き等への対応	<input type="checkbox"/> 衛生環境を保つための土足厳禁の説明は行ったか <input type="checkbox"/> 上履きを所有しない避難者への対応は <input type="checkbox"/> 濡れた衣類への配慮は行ったか <input type="checkbox"/> 靴袋等の用意はしているか
3. 居住区	① 動線確保	<input type="checkbox"/> 動線の確保はできているか <input type="checkbox"/> 動線分離の目的や色区分等は掲示されているか <input type="checkbox"/> 避難者や支援者も理解できているか
	② 感染防護シート	<input type="checkbox"/> 各居住区毎に感染防護シートは貼られているか <input type="checkbox"/> 消毒は定期的に行われているか <input type="checkbox"/> 消毒を行った記録は残されているか <input type="checkbox"/> 剥がすときの注意事項は理解できているか <input type="checkbox"/> 剥がすときに感染防護策は行われているか
	③ パーテーションの組換え	<input type="checkbox"/> 避難者に合わせたパーテーションの組換えは可能か <input type="checkbox"/> パーテーションの組換えは誰が行うのか <input type="checkbox"/> パーテーションの強度に問題はないか <input type="checkbox"/> 組立に要する時間は <input type="checkbox"/> 解体に要する時間は <input type="checkbox"/> パーテーションの再利用は可能か <input type="checkbox"/> 就寝用ボックスの再利用は可能か <input type="checkbox"/> 部屋割りは、地区別、対象者別等どれが適切か <input type="checkbox"/> 一目して理解できるブロック名の標記はなされているか <input type="checkbox"/> 同居家族による 2 区分使用の要望は認めるのか <input type="checkbox"/> 内部に荷物置き等の配慮はなされているか

訓練番号	内容	確認事項
3. 居住区	④車椅子等	<input type="checkbox"/> 車椅子等の障がい者対策はなされているか <input type="checkbox"/> 車椅子の保管場所は、室内か室外か
	⑤ゴミステーション	<input type="checkbox"/> 普通廃棄物と汚染廃棄物の区分はなされているか <input type="checkbox"/> 汚染廃棄物BOXは蓋がついているか <input type="checkbox"/> 汚染廃棄物処理の注意事項が明記されているか <input type="checkbox"/> ゴミステーションの場所は最適か <input type="checkbox"/> 汚染廃棄物処理のための契約等が行われているか
	⑥食事	<input type="checkbox"/> 食事場所は確保できているか <input type="checkbox"/> 食事場所は共同か個室内か、どちらを推奨するのか <input type="checkbox"/> 新しい生活様式は行われているか <input type="checkbox"/> 食事は受け取りに並ぶのか配食するのか <input type="checkbox"/> 規模に応じた配食は検討されているか <input type="checkbox"/> 配食で密を避けるための手法は講じているか <input type="checkbox"/> 避難者の手の消毒は行われているか <input type="checkbox"/> 配膳担当の飛沫防止策等は講じているか <input type="checkbox"/> 配食の数量のカウントは行っているか <input type="checkbox"/> 把握した数量を反映させているか
	⑦就寝	<input type="checkbox"/> 就寝用ボックスの評価は <input type="checkbox"/> 就寝用ボックスの再利用は可能か <input type="checkbox"/> 就寝時間等の避難所運営ルールは周知されているか
	⑧室内換気	<input type="checkbox"/> ウイルス対策のための換気は適切に行われているか <input type="checkbox"/> 放送等で注意喚起を行っているか <input type="checkbox"/> 注意喚起のための案内等は掲示されているか <input type="checkbox"/> 入口の向きによる換気への影響は考慮したか
	⑨熱中症対策	<input type="checkbox"/> 熱中症対策のための案内は定期的に行われているか <input type="checkbox"/> 総合体育館の最新の空調設備特性を理解しているか <input type="checkbox"/> 水分補給等の案内は行っているか <input type="checkbox"/> パーテーション内の温度確認は行ったか <input type="checkbox"/> 熱中症対策のためにアイスパック等の配布は行っているか <input type="checkbox"/> 小型扇風機等は有効か(ファンの騒音問題を含め) <input type="checkbox"/> 室温の変化は確認できるか <input type="checkbox"/> 空調の吹き出し口は意識しているか
	⑩居住区分方法	<input type="checkbox"/> 地区別の区分分けの課題は何か <input type="checkbox"/> 対象者別の区分分けの課題は何か <input type="checkbox"/> 地区別、対象者別などの区分分けが適切か <input type="checkbox"/> 指定した位置は適切だったか <input type="checkbox"/> 家庭(個人)ごとの区分分けの課題は何か <input type="checkbox"/> エリア毎のカラー化は可能か <input type="checkbox"/> 緊急時に部屋外に要請できる仕組みはあるか <input type="checkbox"/> パーテーションの高さは適正か
	⑪居住面積	<input type="checkbox"/> 組換え後の居住面積は適切か <input type="checkbox"/> 最大拡張を何人までにするのか
4. 共用空間	①トイレ	<input type="checkbox"/> 手指消毒は行っているか <input type="checkbox"/> トイレの清掃は定期的に行っているか <input type="checkbox"/> 換気は定期的に行っているか <input type="checkbox"/> 靴の履き替えは行っているか <input type="checkbox"/> トイレ内サンダルは共用か <input type="checkbox"/> 上履きでトイレに入っていないか <input type="checkbox"/> トイレトペーパーは不潔になっていないか

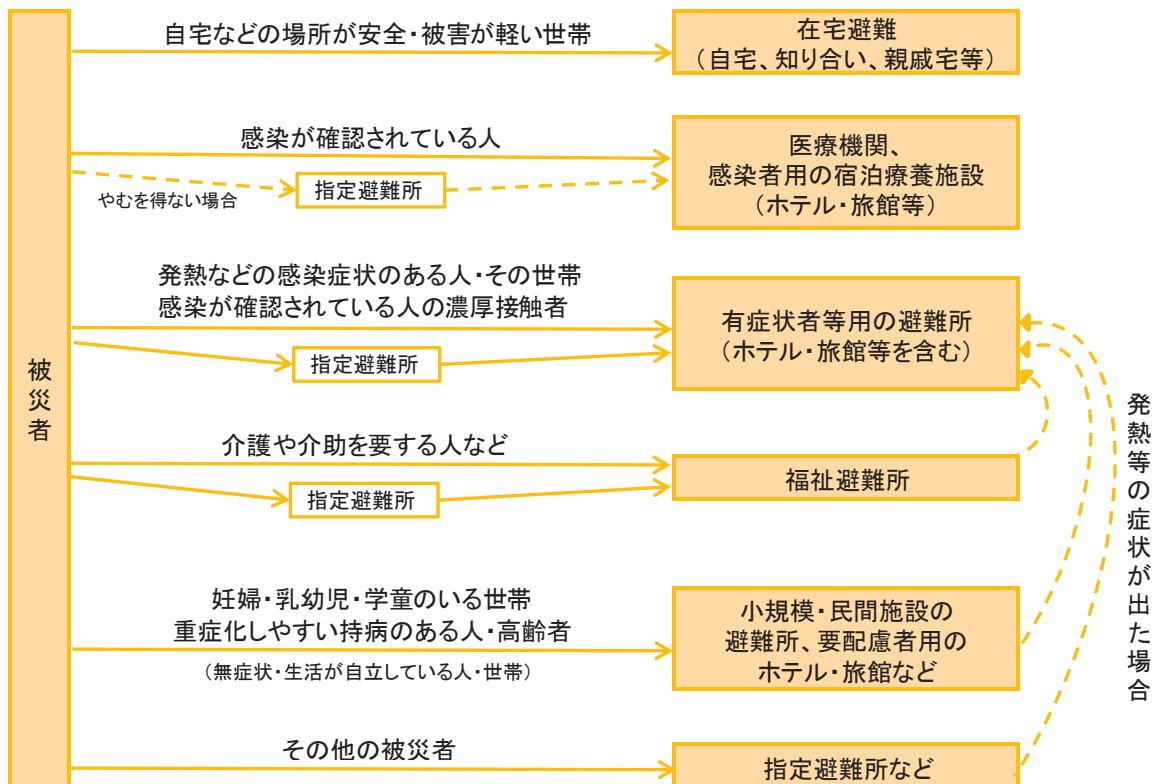
訓練番号	内容	確認事項
4. 共用空間	②食事	<input type="checkbox"/> 食事場所は確保できているか <input type="checkbox"/> 食事場所は共同か個室か、どちらを推奨するのか <input type="checkbox"/> 新しい生活様式は行われているか <input type="checkbox"/> 食事は受け取りに並ぶのか配食するのか <input type="checkbox"/> 規模に応じた配食は検討されているか <input type="checkbox"/> 配食で密を避けるための手法は講じているか <input type="checkbox"/> 避難者の手の消毒は行われているか <input type="checkbox"/> 配膳担当の飛沫防止策等は講じているか <input type="checkbox"/> フェイスシールドを用いているか <input type="checkbox"/> 配食の数量のカウントは行っているか <input type="checkbox"/> 把握した数量を反映させているか <input type="checkbox"/> 居室内に弁当を保管していないか <input type="checkbox"/> 配食物の温度管理は行われているか <input type="checkbox"/> 消費期限の確認を行っているか <input type="checkbox"/> 少量しかない食品の配布について事前に検討を行ったか <input type="checkbox"/> 車両避難者への配布は、どのエリアで行うのか <input type="checkbox"/> 車両避難者への配布済み確認はどのように行うのか <input type="checkbox"/> 在宅避難者への広報は行っているのか <input type="checkbox"/> 在宅避難者への配布は地区拠点まで配送するのか <input type="checkbox"/> 在宅避難者への配布数の確認はどのように行うのか <input type="checkbox"/> 指定の時間までに注文は行ったか <input type="checkbox"/> 運営者側も適切に食事を行っているか
	③生活物資等	<input type="checkbox"/> 物資受入のための動線確保はなされているか <input type="checkbox"/> 搬入等の事前連絡体制は確立されているか <input type="checkbox"/> 搬入・配布等に避難者に協力を呼び掛けているか <input type="checkbox"/> 入庫・荷出・在庫等の管理はデータ化しているか <input type="checkbox"/> 感染防止のため配布方法について見直しを行ったか <input type="checkbox"/> 商品サンプルのみを置いての受け渡し方法の課題は何か
	④新生児対応	<input type="checkbox"/> 授乳室の案内は行っているか <input type="checkbox"/> 哺乳瓶、お湯、温度計等の準備は行っているか <input type="checkbox"/> 液体ミルクの流通備蓄での要請は行ったか <input type="checkbox"/> おむつの備蓄は揃っているか <input type="checkbox"/> おむつ取り換えの別室は用意できているか <input type="checkbox"/> 廃棄のための袋、箱等は用意しているか <input type="checkbox"/> テント等を用いる場合は、非透過型となっているか
	⑤消毒	<input type="checkbox"/> 居住エリアの消毒は行うのか <input type="checkbox"/> 使用資機材の消毒は行うのか <input type="checkbox"/> 感染防護シート等の消毒は行うのか <input type="checkbox"/> 近隣避難者の要望があれば消毒を行うのか
5. 体調不良者	①定期的巡回	<input type="checkbox"/> 保健師等による定期的巡回は行っているか <input type="checkbox"/> バイタル測定用の機器は準備されているか <input type="checkbox"/> 巡回時のPPEは適切か <input type="checkbox"/> 避難者が声掛けできる仕組みは構築されているか
	②家族、周辺からの報告	<input type="checkbox"/> 健康観察には複数で行うのか <input type="checkbox"/> 感染防護のための基準は設けているか
	③バイタルサイン	<input type="checkbox"/> 基礎的なバイタルサインの観察は行えるのか <input type="checkbox"/> 健康観察を行う者は常駐しているのか <input type="checkbox"/> 観察は居住エリア・別室等どこで行うのか <input type="checkbox"/> ストレッチャー・車椅子等の準備はできているのか
	④人権への配慮	<input type="checkbox"/> 他の避難者への説明はどの程度行うのか <input type="checkbox"/> 人権に配慮はなされているか
	⑤消毒	<input type="checkbox"/> 居住エリアの消毒は行うのか <input type="checkbox"/> 使用資機材の消毒は行うのか <input type="checkbox"/> 感染防護シート等の消毒は行うのか <input type="checkbox"/> 近隣避難者の要望があれば消毒を行うのか
	⑥新型コロナウイルス 感染確認	<input type="checkbox"/> 感染判明時に行うべきことを理解しているか <input type="checkbox"/> 隣室等は濃厚接触に該当するのか <input type="checkbox"/> 関係者から当該者の行動履歴の聞き取りは行ったか <input type="checkbox"/> 別室への移動を依頼したか <input type="checkbox"/> 人権への配慮を行ったか <input type="checkbox"/> 不安な避難者にどのような説明を行ったか <input type="checkbox"/> 消毒の範囲は <input type="checkbox"/> 換気は行ったか <input type="checkbox"/> 閉鎖や他避難所への移動要望にどう対応するのか

訓練番号	内容	確認事項
6. 車中避難	①意向の確認	<input type="checkbox"/> 車中避難の希望調査をどこで行うのか <input type="checkbox"/> 避難所が密の場合、車中避難を推奨するのか <input type="checkbox"/> 受付場所は何処で行うのか <input type="checkbox"/> 駐車場所の決定方法は <input type="checkbox"/> 定期的な巡回は行っているか <input type="checkbox"/> 消毒、換気の励行を行ったか <input type="checkbox"/> 飲料水等の配布を行うタイミングは <input type="checkbox"/> トイレ等、建物内部の案内図は配布したか <input type="checkbox"/> 適度な運動等の車中避難の注意事項を理解しているか <input type="checkbox"/> 騒音、排ガス対策は行っているか <input type="checkbox"/> 熊本地震での課題解決のための改善策は
7. その他		<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>

オ. 避難所受付レイアウト



カ. 避難施設の役割分担



## 避難所での生活ルール

避難所生活を快適にするため、以下の点に注意し、皆さんで協力しましょう。

\*この避難所は、地域の防災拠点です。

\*避難所は、避難者が主体となり運営しましょう。

・大量の人員を要する作業へは、出来る限り協力しましょう。

① 食料・物資の受入や配布 ②炊出し ③生活水の確保 等

\*個人のことは個人の責任で行いましょう。

・個人のスペースは、個人の責任において管理し、周囲に不快感を与えないようにしましょう。

・居住スペースは土足厳禁とし、脱いだ靴は各自で保管しましょう。

・個人の持ち物も、個人の責任において管理し、貴重品は常に携帯する等して管理しましょう。

・喫煙は、避難所敷地内では禁止します。

・避難所内での飲酒は禁止します。

・ペットは決められた場所で飼育するなど、他の避難者の迷惑にならないよう管理しましょう。

\*食料・物資等は、原則として全員に公平な提供ができるようになってから、配布します。

・不足する場合は、要配慮者（こども、妊産婦、高齢者、障がい者）の方を優先し配布します。

・発熱や下痢など、人にうつる病気になった（恐れがある）時には、避難所職員へ申し出てください。

### 生活時間

○起床時間：7時00分 ○消灯時間：22時00分

・廊下は点灯したままとし、生活スペースなどは照明を落とします。避難所本部は、防犯のため点灯したままとします。

○食事時間 朝食7時30分 昼食12時00分 夕食18時00分

・食料の配布は、協力して行いましょう。

### ゴミ処理

○鼻水等が付着したティッシュやマスク、消毒作業で使用した手袋等は、汚染面に直接触れないようにして、専用のごみ箱に捨てましょう。

○世帯ごとに発生したゴミは、原則として、それぞれの世帯が共有のごみ捨て場に搬入します。

○共同作業で発生したゴミは、その作業を担当した人たちが責任を持って捨てます。

○ゴミの分別を行ってください。

### プライバシーの保護

○生活スペースは、一般の「家」同様、みだりに立ち入ったり覗いたりしないように気をつけてくだ



益城町役場からのお知らせ

## 避難されている皆様へ



**注意!**

災害により長時間避難所で生活されていると、エコノミークラス症候群や食中毒が発生する可能性が高くなります。また、現在、新型コロナウイルス感染症が流行しています。

避難所での集団生活では、以下の点に注意しましょう。

### ① 感染症対策

- (1) マスクをつけ、1日1回は検温しましょう。
- (2) 食事の前やトイレの後には手を洗い、水が出ない場合はアルコール等で手をきれいにしてください。
- (3) 間近での会話を控え、密接を避けましょう。
- (4) はだしで砂や土の上を歩かないようにしましょう。

### ② エコノミークラス症候群対策

長時間足を動かさず同じ姿勢でいると、エコノミークラス症候群を起こす可能性があります。初期症状として、太ももから下の足が赤くなったり、腫れたり、痛みが出現することもあります。足にできた血栓が肺に詰まり、突然の胸痛、呼吸困難、失神等の症状が出現し、大変危険な状態となることもあります。

#### 【予防方法】

- (1) 長時間同じ（特に車中等での窮屈な）姿勢でいないようにする。
- (2) 足の指をこまめに動かす、または歩く。
- (3) 適度な水分を取る。
- (4) 時々深呼吸をする。

### ③ 食中毒対策

- (1) 食事の際は清潔に努め、手洗いもしっかり行いましょう。
- (2) 生ものは避けて、加熱したものを食べるようにしましょう。
- (3) 調理したものは、早めに食べましょう。
- (4) 提供された食品は、消費（賞味）期限内に食べましょう。
- (5) 食べ物が置いてある場所にペットなどの動物を近づけないようにしましょう。

### ④ その他

- (1) 咳、発熱等の症状がある場合は、早めに避難所運営スタッフに相談しましょう。
- (2) 食物アレルギーのある方は、食事にアレルギーが含まれていないか確認しましょう。

連絡先：益城町役場 096-286-3111

益城町役場からのお知らせ

## 車中避難されている皆様へ



現在、新型コロナウイルス感染症が流行しています。車中避難生活では、以下の点に注意しましょう。

### ① 感染症対策

- (1) マスクをつけ、1日1回は検温しましょう。
- (2) 食事の前やトイレの後には手を洗い、水が出ない場合はアルコール等で手をきれいにしてください。
- (3) はだしで砂や土の上を歩かないようにしましょう。

### ② エコノミークラス症候群対策

長時間足を動かさず同じ姿勢でいると、エコノミークラス症候群を起こす可能性があります。初期症状として、太ももから下の足が赤くなったり、腫れたり、痛みが出現することもあります。足にできた血栓が肺に詰まり、突然の胸痛、呼吸困難、失神等の症状が出現し、大変危険な状態となることもあります。

#### 【予防方法】

- (1) 長時間同じ（特に車中等での窮屈な）姿勢でいないようにする。
- (2) 足の指をこまめに動かす、または歩く。
- (3) 適度な水分を取る。
- (4) 時々深呼吸をする。

### ③ 食中毒対策

- (1) 食事の際は清潔に努め、手洗いもしっかり行いましょう。
- (2) 生ものは避けて、加熱したものを食べるようにしましょう。
- (3) 調理したものは、早めに食べましょう。
- (4) 提供された食品は、消費（賞味）期限内に食べましょう。
- (5) 食べ物が置いてある場所にペットなどの動物を近づけないようにしましょう。

### ④ その他

- (1) 咳、発熱等の症状がある場合は、早めに避難所運営スタッフに相談しましょう。
- (2) 食物アレルギーのある方は、食事にアレルゲンが含まれていないか確認しましょう。



連絡先：益城町役場

286-3111



コ. タイムライン作成用資料

家 < 市・町・村 地区 >

作成年月日  
 \_\_\_\_年 \_\_\_\_月 \_\_\_\_日

## マイ・タイムライン ~ 突然の大雨に伴う河川の氾濫 ~

発生し得る	大雨と河川の状況	気象台・市町村・河川事務所から発信される情報	準備・準備・行動
①	<p><b>異常発生</b> H24年九州北部豪雨にまつく ※実際はこの限りではありません</p> <p>約3日くらい前</p> <p>約1日くらい前</p> <p>大雨の可能性が高くなる →ニュース あすからあまってきたら 非常に激しい雨が降るでしょう 激しい土砂の崩落、土砂災害、 河川の急な増水、はんらんなどに 警戒してください。 今後気象台が発信する警報・注 意報に十分注意してください。</p>	<p>予兆や前兆は少ない場合、予兆がほとんどない <b>早期注意情報(警報発の可能性):中</b></p> <p>おおあめのみ、まじょうじょうほう 大雨に関する気象情報</p> <p>おおあめのみ、まじょうじょうほう <b>早期注意情報(警報発の可能性):高</b></p> <p>おおあめのみ、まじょうじょうほう 大雨に関する気象情報</p>	
	<p>平日～数時間前</p> <p>雨が降り始める</p> <p>雨が集まって、川の 水がだんだん増える</p> <p>雨が強まる</p> <p>雨が激しくなる</p>	<p>おおあめのみ、まじょうじょうほう <b>大雨注意報・洪水注意報</b></p> <p>※上流域での大雨特別警報</p> <p>はんらんのおそれがある 指定河川洪水予報(氾濫注意情報)</p> <p>おおあめのみ、まじょうじょうほう <b>大雨警報・洪水警報</b></p> <p>ひなんしん、きんさく 避難場所の開設</p> <p>ひなんしん、きんさく、こうさいしごとひんがいのし 避難準備・高齢者等避難開始</p>	
④	<p>激しい雨で、川の水が どんどん増え、 河川敷にも水が流れる</p> <p>川の水がいっぱい であふれそう</p>	<p>はんらんのおそれがある 指定河川洪水予報(氾濫警戒情報)</p> <p>はんらんのおそれがある 指定河川洪水予報(氾濫危険情報)</p> <p>ひなんのしごと 避難勧告</p> <p>ひなんしん、きんさく 避難指示(緊急)</p>	
	<p>これまでに経験のない大雨と合わせて さらに被害の拡大が懸念される (非常事態)</p> <p>川の水が氾濫</p>	<p>はんらんのおそれがある 指定河川洪水予報(氾濫発生情報)</p> <p>おおあめのみ、まじょうじょうほう 大雨に関する気象情報 (特別警報の可能性について)</p> <p>おおあめのみ、まじょうじょうほう <b>大雨特別警報</b></p> <p>きらくてき、おおあめのみ、まじょうじょうほう 記録的な大雨に関する気象情報</p>	

※【大雨と河川の状況】の時間経過や【発信される情報】は過去災害に基づくイメージです。実際は様々な状況が考えられます。あくまでも目安としてご活用ください。

## 2. 様式集

### ア. 健康状態確認カード

#### 健康状態確認カード

記入日： 年 月 日

現在の体調を記入してください。

氏名 \_\_\_\_\_

( 歳)

発熱はありますか	はい・いいえ 「はい」の場合 ( 度)
息苦しさはありますか	はい・いいえ
咳やたんがありますか	はい・いいえ
身体がきつかったりがありますか	はい・いいえ
嘔吐や吐き気がありますか	はい・いいえ
下痢がありますか	はい・いいえ
味覚やにおいを感じられない状態ですか	はい・いいえ

◎上記の項目で1つでも「はい」と答えた方にお尋ねします。

・該当する項目での病院受診はされていますか？ (はい・いいえ)

「はい」の場合は医療機関名を記入してください。

病院名 ( )

・内服はされていますか？ (はい・いいえ)

「はい」の場合は内服薬名を記入してください。

内服薬 ( )

イ. 体調チェック表

体調チェック表

ふりがな <b>氏名</b>	*その他 記入事項
-------------------	-----------

	体温							／ (日)
	／ (月)	／ (火)	／ (水)	／ (木)	／ (金)	／ (土)	／ (日)	
	朝 °C	朝 °C	朝 °C	朝 °C	朝 °C	朝 °C	朝 °C	朝 °C
	昼 °C	昼 °C	昼 °C	昼 °C	昼 °C	昼 °C	昼 °C	昼 °C
	夜 °C	夜 °C	夜 °C	夜 °C	夜 °C	夜 °C	夜 °C	夜 °C
一つでも該当があれば「はい」を選択 ★息が荒くなった(呼吸数が多くなった) ★急に息苦しくなった ★少し動くと息があがる ★胸の痛みがある ★横になれない・座らないと息ができない ★肩で息をしている・ゼーゼーしている	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ
【味覚・嗅覚】	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ
【喀痰・咳嗽】	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ
【全身倦怠感】	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ
【嘔気・嘔吐】	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ
【下痢】	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ
その他の症状 (食事が食べられない 半日以上尿が出ていない 鼻水・鼻づまり、のどの痛み 結膜充血、頭痛、関節筋肉痛 けいれん、その他の気になる症状)	はい・いいえ (具体の症状)	はい・いいえ (具体の症状)	はい・いいえ (具体の症状)	はい・いいえ (具体の症状)	はい・いいえ (具体の症状)	はい・いいえ (具体の症状)	はい・いいえ (具体の症状)	はい・いいえ (具体の症状)

出典：岐阜県避難所運営ガイドライン「新型コロナウイルス感染症対策編」令和2年5月 岐阜県

ウ. 避難者名簿

避難者名簿 年 月 日 区画 ( - ) 避難所名 ( 総合体育館 )

連番	代表者氏名	携帯電話番号 (緊急連絡先)	避難者数	該当する場合 (○を付ける)	避難者カード (○を付ける)	
				高齢者・外国人 ・ 障がい者・妊婦	配 布 ・ 未配布	提 出 ・ 未提出

避難者名簿 年 月 日 区画 ( - ) 避難所名 ( 総合体育館 )

連番	代表者氏名	携帯電話番号 (緊急連絡先)	避難者数	該当する場合 (○を付ける)	避難者カード (○を付ける)	
				高齢者・外国人 ・ 障がい者・妊婦	配 布 ・ 未配布	提 出 ・ 未提出

避難者名簿 年 月 日 区画 ( - ) 避難所名 ( 総合体育館 )

連番	代表者氏名	携帯電話番号 (緊急連絡先)	避難者数	該当する場合 (○を付ける)	避難者カード (○を付ける)	
				高齢者・外国人 ・ 障がい者・妊婦	配 布 ・ 未配布	提 出 ・ 未提出

避難者名簿 年 月 日 区画 ( - ) 避難所名 ( 総合体育館 )

連番	代表者氏名	携帯電話番号 (緊急連絡先)	避難者数	該当する場合 (○を付ける)	避難者カード (○を付ける)	
				高齢者・外国人 ・ 障がい者・妊婦	配 布 ・ 未配布	提 出 ・ 未提出



エ. 避難者カード

避難者カード(感染症対策版) 避難所名 総合体育館 連番        区画        取扱注意

①入所日時	年 月 日 時 分	⑥避難場所	<input type="checkbox"/> 避難所 (            人)
②自宅住所	〒		<input type="checkbox"/> 車中泊 (避難所敷地内)
③記入者氏名			(            人)(            台)
④携帯電話	(        )        -		<input type="checkbox"/> 自宅 (            人)
⑤自宅の被害状況の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	⑦連絡がとれていない家族	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり (            )

⑧避難所を利用する人			⑨新型コロナウイルス感染症にかかる健康観察チェック※1	⑩要介護等配慮が必要なこと※2
氏 名		性別		
世帯主	ふりがな	男・女	微熱(平熱より高い)が <input type="checkbox"/> ない <input type="checkbox"/> ある	
			強いだるさ(倦怠感)が <input type="checkbox"/> ない <input type="checkbox"/> ある	
1人家族	ふりがな	男・女	微熱(平熱より高い)が <input type="checkbox"/> ない <input type="checkbox"/> ある	
			強いだるさ(倦怠感)が <input type="checkbox"/> ない <input type="checkbox"/> ある	
	ふりがな	男・女	微熱(平熱より高い)が <input type="checkbox"/> ない <input type="checkbox"/> ある	
			強いだるさ(倦怠感)が <input type="checkbox"/> ない <input type="checkbox"/> ある	
	ふりがな	男・女	微熱(平熱より高い)が <input type="checkbox"/> ない <input type="checkbox"/> ある	
			強いだるさ(倦怠感)が <input type="checkbox"/> ない <input type="checkbox"/> ある	
ふりがな	男・女	微熱(平熱より高い)が <input type="checkbox"/> ない <input type="checkbox"/> ある		
		強いだるさ(倦怠感)が <input type="checkbox"/> ない <input type="checkbox"/> ある		

⑩避難理由	<input type="checkbox"/> 避難勧告等の発令 <input type="checkbox"/> 自宅が浸水想定区域 <input type="checkbox"/> 雨風が不安 <input type="checkbox"/> 自宅が土砂災害警戒区域 <input type="checkbox"/> その他 (            )	⑪非常食持参の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
⑫ペットの状況	<input type="checkbox"/> 飼っていない	種類・数 (            )	<input type="checkbox"/> ペット同行避難を希望
⑬移動交通手段	<input type="checkbox"/> 徒歩 <input type="checkbox"/> 自転車 <input type="checkbox"/> 送迎 <input type="checkbox"/> 公共交通 <input type="checkbox"/> 自家用車 (⑩に必要事項記入)		
⑭自家用車 (避難所敷地内に駐車する場合のみ記入)	車種	色	ナンバー

※1 新型コロナウイルス感染症の感染防止対策として、健康観察を実施しています。

※2 要介護や障がいの程度、けが・病気、妊娠の有無等、特に配慮が必要なことや、服薬情報等支援に必要な情報を記入してください。

◎ ご記入いただいた情報は、健康に関する支援等を行うため、避難所運営に必要な範囲で共有します。

◎ ペット同行避難については、更に詳しくペットの情報をお聞きし、避難所の状況を考慮したうえで受入れを判断します。

オ. 車中避難者名簿

車中避難者名簿				年	避難所名 ( 益城町総合体育館 )		
番号	代表者氏名	携帯電話番号 (緊急連絡先)	避難者数	車種 ナンバー	該当する場合 (○を付ける)	避難者カード (○を付ける)	
1					高齢者・外国人 ・ 障がい者・妊婦	配布 ・ 未配布	提出 ・ 未提出
2					高齢者・外国人 ・ 障がい者・妊婦	配布 ・ 未配布	提出 ・ 未提出
3					高齢者・外国人 ・ 障がい者・妊婦	配布 ・ 未配布	提出 ・ 未提出
4					高齢者・外国人 ・ 障がい者・妊婦	配布 ・ 未配布	提出 ・ 未提出
5					高齢者・外国人 ・ 障がい者・妊婦	配布 ・ 未配布	提出 ・ 未提出
6					高齢者・外国人 ・ 障がい者・妊婦	配布 ・ 未配布	提出 ・ 未提出
7					高齢者・外国人 ・ 障がい者・妊婦	配布 ・ 未配布	提出 ・ 未提出
8					高齢者・外国人 ・ 障がい者・妊婦	配布 ・ 未配布	提出 ・ 未提出
9					高齢者・外国人 ・ 障がい者・妊婦	配布 ・ 未配布	提出 ・ 未提出
10					高齢者・外国人 ・ 障がい者・妊婦	配布 ・ 未配布	提出 ・ 未提出
11					高齢者・外国人 ・ 障がい者・妊婦	配布 ・ 未配布	提出 ・ 未提出
12					高齢者・外国人 ・ 障がい者・妊婦	配布 ・ 未配布	提出 ・ 未提出
13					高齢者・外国人 ・ 障がい者・妊婦	配布 ・ 未配布	提出 ・ 未提出
14					高齢者・外国人 ・ 障がい者・妊婦	配布 ・ 未配布	提出 ・ 未提出
15					高齢者・外国人 ・ 障がい者・妊婦	配布 ・ 未配布	提出 ・ 未提出

九. 車中避難者届出済証

発行日： 年 月 日

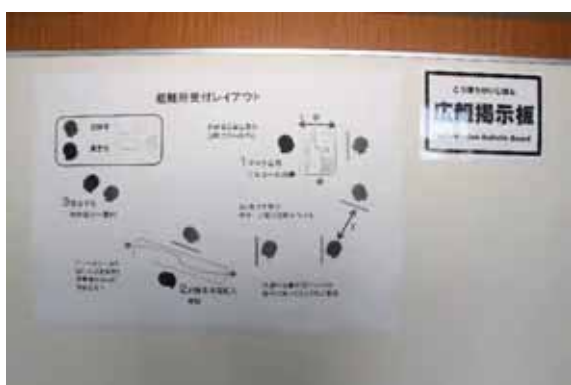
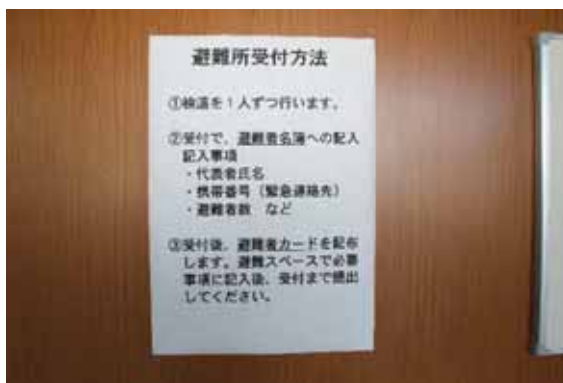
# 益城町総合体育館 避難所 届出済証

<h2>受付番号</h2>	<small>※避難者カードの受付番号を記入</small>
---------------	--------------------------------

※ダッシュボード上の見えやすい場所に掲示してください。

※決められたスペースに駐車し、通行箇所を守ってください。

## VI 当日写真















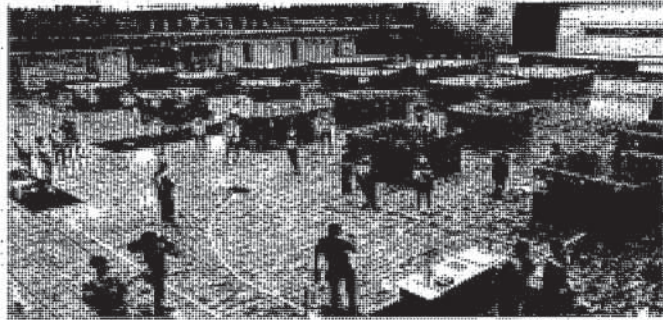








# 熊本都市圏



新型コロナウイルスの感染防止対策のため、熊本県庁が実施した風水害時の避難所運営訓練。職員同士が間隔を空けて対応を検証した＝益城町

## 避難所の感染防護確認

### 益城町梅雨入り控え訓練

益城町は梅雨入りを前に24日、町総合体育館で新型コロナウイルスの感染拡大に備えた避難所運営訓練を実施し、町職員ら約100人が、正しい感染防護策や避難者受け入れの手順などを確認した。

大雨警報の発表を受け、町が災害対策本部を立ち上げたなどの想定。体育館入り口には、町が新たに購入した体温測定カメラを設置。高さ1・4メートルの段ボール製の間仕切りで間隔を空けて設けたスペースに、避難者役の職員を誘導した。

体調不良者のケアや食料の配布など、訓練の流れを見守った熊本赤十字病院の看護師や専門家は「靴を履き替える場所の十分な確保や、屋外で車中泊をしている人が出入りする際の対策などを明確にしたほうがいい」と指摘していた。

町によると、通常の避難所開設より時間や人員を要するほか、収容人数が半減するなど課題も多いという。訓練を検証し新たに策定した「新型コロナウイルス避難所運営マニュアル」を見直す。

今石佳太危機管理監は「在宅避難や車中泊も視野に入れ、まず今シーズンの出水期を乗り切りたい」と話した。

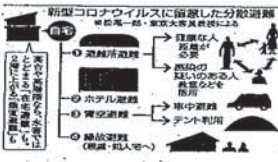
同体育館は熊本地震で被災し、今年3月に建て替えが完了。7月から一般使用できる。

(立石真一)

ニュースや話題の提供は 地方・都市圏部 TEL 096(361)3141 御船支局 TEL 096(282)0220 FAX 096(282)2136

# コロナ禍 変わる避難所

新型コロナウイルスの流行で、災害時の避難や避難所は大きな変化を辿られそう。感染リスクを抑えながら、どう身を守るか。県内外の自治体の取り組みや避難の在り方、私たちができる備えを探った。



熊本県立大宮原小学校で避難所として活用された校舎。避難者らは机を並べ、机と机の間を確保して座る。机と机の間には消毒液が用意されている。

新型コロナウイルス感染症の流行で、災害時の避難や避難所は大きな変化を辿られそう。感染リスクを抑えながら、どう身を守るか。県内外の自治体の取り組みや避難の在り方、私たちができる備えを探った。

## 「3密」回避に苦心 自治体 自治体

### 「分散」の選択 家族で確認を

東京大宮原校長(防災行動学) 松尾一郎氏に聞く

新型コロナウイルス感染症の流行で、災害時の避難や避難所は大きな変化を辿られそう。感染リスクを抑えながら、どう身を守るか。県内外の自治体の取り組みや避難の在り方、私たちができる備えを探った。

- ・従来の平方メートルあたりに1人分のスペースを4平方メートルに拡大(福岡県)
- ・2メートルの間隔で床にテープを貼る。避難者同士が離れて過ごすように促す(北海道厚別町)
- ・避難所が学校の場合は、体育館だけでなく廊下も活用(千葉県)
- ・履物や手拭きタオルで履物と床を保護し、履物と床の間を確保。履物と床の間には消毒液が用意されている(千葉県成田市)
- ・入り口に消毒液を配置し、マスクを配布(石川県高岡市)
- ・高齢者や障害者らを受け入れる福祉避難所としてホテルを活用を検討(千葉県栗山町)
- ・在宅避難ができるよう、食料や水などの備蓄や車内の安全対策を呼び掛け(さいたま市)
- ・新型コロナウイルス拡大で自治体運営する避難所の避難所として公民館を活用(千葉県厚馬町)

### 感染防止、施設や職員確保…

新型コロナウイルス感染症の流行で、災害時の避難や避難所は大きな変化を辿られそう。感染リスクを抑えながら、どう身を守るか。県内外の自治体の取り組みや避難の在り方、私たちができる備えを探った。

自治体は、避難所運営マニュアルを見直し、感染防止策を強化している。また、避難所の確保や職員の確保も重要な課題となっている。

事前準備 持参忘れずに

日本赤十字北海道看護大学 根本昌宏氏



避難所運営マニュアルを見直し、感染防止策を強化している。また、避難所の確保や職員の確保も重要な課題となっている。



# 避難所の「3密」どう防ぐ



益城町避難所。避難者約500人（25日）

## 益城町、マニュアル策定へ 梅雨控え

水害への警戒が厳格な益城町。水害の避難所として、新型コロナウイルスの感染をどう防ぐのかを課題と捉えている。熊本県で被災を被った益城町では、「3密」を防ぐ感染対策を盛り込んだ「避難所運営マニュアル」を策定中。対策を急いでいる。（林明）

### 仕切りや検温カメラ設置



避難所運営委員が仕切りを設置する様子

2019年の熊本水害時は4月16日の水害発生。町内10か所の指定避難所を駐車場で約4000人が避難した。益城町は、水害の発生を想定し、避難所運営マニュアルを策定中。水害発生時の避難所運営マニュアルを策定中。水害発生時の避難所運営マニュアルを策定中。

こうした状況を踏まえ、町では避難所の環境改善に取り組んできた。今年度は、新型コロナウイルスの感染防止対策として、避難所運営委員が仕切りを設置する様子。また、町は、水害発生時の避難所運営マニュアルを策定中。水害発生時の避難所運営マニュアルを策定中。

新型コロナウイルスの相談窓口	
県	096-300-5909
熊本市	096-364-3222
	096-372-0705

また、町は、水害発生時の避難所運営マニュアルを策定中。水害発生時の避難所運営マニュアルを策定中。水害発生時の避難所運営マニュアルを策定中。



# 感染防ぎ避難所運営

## 梅雨の大雨 自治体 手探り

梅雨や台風季節が近づいてきた。新型コロナウイルスの「共存」も進められ、と言われる中、災害発生時に感染を防ぐための対策が始まっている。自治体の自治体は避難所の運営方法を検討している。

### 益城で訓練

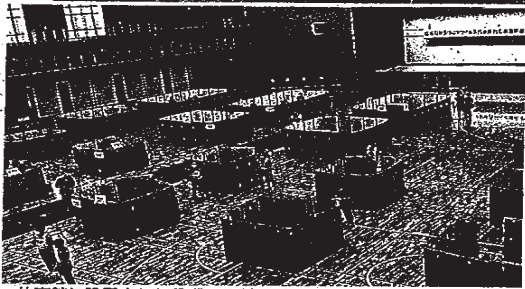
益城町の総合体育館で24日、新型コロナウイルスに対する対応した避難所運営訓練があった。想定したのは、感染が拡大する中で雨が降り、避難所を発生させた場面だ。

### 新型 コロナ



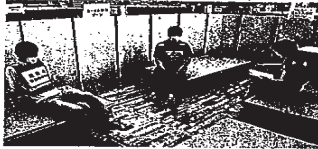
訓練で、非接触型のサーマルカメラで検温する避難者（左）と益城町木山

町職員ら約100人が出た場面を想定し、参加。運営職員、避難者も対応や動き方を確認した。高齢者、介助が必要な避難者などの役割が、物資配りや感染が疑われる場合の対応も確認された。受け付け手続



体育館に設置された段ボール製のパーティション

「避難所が広い」パーティションは近づくやみでいるが、避難者からその申し出があつた想定で、冷却シートを渡す。消毒作業もした。密集を避けた車の提供、車いす使用も「トイレ」や授乳



運営1・4府の段ボールで組み立てたパーティションの中、避難者がこぼれず想定

聞き取りをした。訓練の後、参加した町職員から「避難所では体調不良を申し出るのに周りの目が気にならざるを得ない。運営者が巡回する形をとってもよいのでは」といった意見もあつた。避難者の人権をより配慮すべきだとの意見も、担当の記で手摺を付けていらないのが気になった」といった指摘が出た。課題が見えてきた。併せて避難所運営を見直すことが必要ではないか。美里町「避難者ゼロ対策も」

災害時は、新型コロナウイルスへの感染を避けて避難をたのむ人が出ることも懸念されている。九州各地が前線や低気圧の影響で大雨に見舞われた16日、美里町は午前9時ごろ、障害のある人や高齢者ら避難に時間がかかる人に向けて避難を呼びかける「避難準備・高齢者等避難開始」の情報を町内全域に出した。この日、町4カ所の避難所を準備したが、午後5時に避難者が解除されるまでに避難してきた人はゼロだった。

「避難者ゼロは想定外だった」と町防災交通課の担当者、感染対策だけではな

にやる、感染リスクを小さくしようとすれば、避難所の収容人数は通常の約半分になるという。今も感染は、本来は推奨していないが、在室避難や車中避難を含め、総合的避難のあり方を考えることが課題になる。ザトマンなどで自分の家がどういった環境にあるかを確認し、備えておくことが必要ではないか。

（大木雄志）